

濟生

SAISEI

THE NEWSLETTER of
Social Welfare Organization
Saiseikai Imperial Gift Foundation, Inc.

No.1156

濟生会
陸前高田診療所
開設10年
2015.10—2025.10



10

October 2025

<https://www.saiseikai.or.jp>

社会福祉法人

恩賜
財団

濟生会

済生会の 不易流行論

理事長 炭谷 茂
Shigeru Sumitani



205

障害児・者を支える群像

医療的ケア児の問題を初めて知ったのは、27年前、旧厚生省社会・援護局長の時だった。部落解放同盟中央書記次長を務めた旧知の谷元昭信さんから「大阪から重度の障害児を連れてくるから会ってくれないか」と電話があった。当日は人工呼吸器を使用して車椅子に乗った小学生の男の子とともに、母親や谷

元さんなど数人の一行だった。上京の目的は、人工呼吸器を使用しているも通常の学校に通学できるなど施策の充実を国会議員に訴えるためだった。当時は医療的ケア児という言葉さえ知られていなかったが、障害児や親は、困難な問題を抱えていたけれども、政治や行政の理解が欠けていた時代である。

母親は、特別支援学校（当時「養護学校」と称した）ではなく、通常の学校で一般の子どもと学ぶ意義を切々と話した。私は、肯くばかりだった。それ以降私は、分離教育からインクルーシブ教育への移行を主張しているが、教育界の壁は、依然として高い。

同じように医療的ケア児問題に取り組む高橋昭彦先生を知ったのは、国立国際医療センター総長等を歴任された鴨下重彦先生からである。自治医科大学教授の時の教え子で、宇都宮市で在宅の難病の子どもの医療に情熱をもって取り組んでいると聞いた。その後高橋先生とは、いろいろな場で交流があったが、地域の障害児への熱意にいつも尊敬するばかりだ。

この道に本格的に入ったきっかけは、2001年にアメリカでの研修に参加したおり、9・11の同時多発テロ事件に現場近くで遭遇し、「死ぬかも知れない。もし無事に日本に帰れたならば、自分がやりたいことをやろう」と決意されたからだという。それだけ強い信念を持って現在の

道を進まれている。これまでの活動については先生の近著「うりずんの風に吹かれて 重い病気や障害、医療的ケアのある子どもとともに」（クリエイツかもがわ）で詳細に知ることができる。

☆ ☆

8月下旬、塩崎恭久元厚労大臣、木村弥生元衆議院議員など医療的ケア児問題に取り組んでいる有識者の方が済生会川口乳児院を視察された。当院は、埼玉県では唯一の医療的ケア児が入所する乳児院である。

医療的ケア児の定員4人で常に満杯である。24時間、見守りケアをすることは、看護師等の手厚い体制が求められる。国の財政措置だけでは全く不十分で、埼玉県から援助を受けている。近くの済生会川口総合病院のバックアップがなければ、適切なケアはできない。まさに済生会の本領が発揮されている。

視察された方々は、医療的ケア児に対する国の施策の拡充の必要性を実感していただいたのだと思う。

不易流行（ふえきりゅうこう）：不易は永遠性、流行はその時々の新風をいい、芭蕉が俳諧思想を表現するときに用いた。済生会は長い歴史で醸成された価値を大切に、時代の変化に適應していかなければならない。

★フコク生命の学資保険★
みらいのつばさ
5年ごと配当付学資保険

返戻率
約 109.5% ※
(ジャンプ型)

累計
契約件数
約 **50**
万件



© 2025 SANRIO CO., LTD.
APPROVAL NO. L660292

資料請求をいただいた方には
サンリオグッズをプレゼント！

資料請求は **こちらから** →



※実際の返戻率は、契約者、被保険者（お子さま）の契約日における年齢、契約者の性別、保険料払込方法により異なります。
【ご契約例】 契約者：30歳男性／被保険者（お子さま）：0歳／保険期間22歳満期 兄弟割引適用なし／口座振替月払

人と人の間に
フコク生命
THE MUTUAL

富国生命保険相互会社
〒100-0011 東京都千代田区千代田 2-2-2
TEL:03-3508-1101 (大代表)

⑤広-業務-0062 (2025.10.10)

topics★コンシェル

「済生」のエンジン（原動力）は後半にあり!!

質・量ともに充実の、済生記者たちが投稿する
記事は宝の山、原石の煌めきを放っています。
済生コンシェルジュがおすすめする記事を
ご紹介します。

全国の済生会施設では地域の方々に「済生会」を知ってもらい、医療・福祉の魅力を発信する体験イベントを開催しています。病院で働くのは医師や看護師、薬剤師だけではなく、多くの職種が働き、それぞれが大事な役割を担っていることを、体験イベントを通して知ってもらえるのではないですか。お住まいの済生会施設のイベントもぜひチェックしてみてください——。



表紙のことば
麦播きの季節、ひとときの再会

表紙イラスト 久保田真由美 *Mayumi Kubota*

秋の深まる頃、ヤマニシキギとも呼ばれるマユミの木は明るく色を濃めます。薄紅色の果実に真っ赤な種を弾けさせた小さい鈴のようなマユミの実。いろいろな野鳥が実をついばみ羽を休めます。麦播き

季節に遠く北から訪れほんのひとつきだけ立ち寄る旅鳥たびどり。その名も「ムギマキ」。この旅鳥は今どこにいるでしょう。きれいに着飾ったマユミの木は今年も旅鳥に会えるでしょうか。



濟生
SAISEI

CONTENTS

OCTOBER, 2025

**済生会
陸前高田診療所
開設10年**

2015.10 — 2025.10

06

伊東所長に聞く、これまでの10年／陸前高田診療所開設10年のあゆみ／データ&図でみる陸前高田診療所／地域の“よりどころ”として／“チーム済生”で一丸となって診療応援／診療所にある三つの石

済生会フェア	〈神奈川〉 横浜市南部病院	18
	福井県済生会病院	26

第23回
全国済生会在宅サービス協議会 20

03

topicS★コンシェル
表紙のことば 久保田眞由美

ソーシャルインクルージョン 22

この人 高田聖子 28

口福につぽん 吉井省一 30

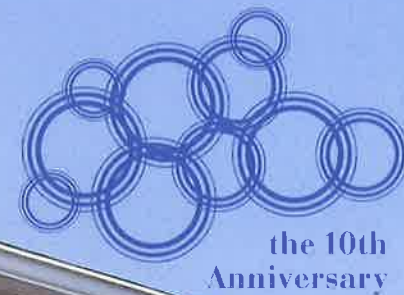
だれでもかんたん てづくりおもちゃ
いまいみさ 32

TOPICS 34

大雜報 91

題字協力：石飛博光
アートディレクション：OVO INTERNATIONAL

済生会 陸前高田診療所 開設 10 年



2015.10 — 2025.10

済生会陸前高田診療所は2015（平成27）年10月に仮設診療所で診療を開始し、
2017（同29）年2月には高松宮記念基金を活用した建物が竣工しました。
本年10月に開設10周年を迎えた同診療所が歩んできたこれまでの活動を、
関わる職員や地域住民の思いとともに伝えます。

（本部広報課）

- 08-09 伊東所長に聞く、これまでの10年
- 10-11 陸前高田診療所開設10年のあゆみ
- 12-13 データ＆図でみる陸前高田診療所
- 14-15 地域の“よりどころ”として
- 16 “チーム済生”で丸となって診療応援
- 17 診療所にある三つの石



「診療所を中心にまちができるようにしたい」

伊東所長に聞く、これまでの10年

東 日本大震災の被災者を支えるために立ち上がり、陸前高田診療所で10年にわたり地域に根差した医療を行ってきた伊東一所長に、これまでのことや思いを聞きました。

——陸前高田に行くことを決めた経緯を聞かせてください。

2011年3月、東日本大震災で陸前高田市は16メートルにも達する海嘯に襲われ、まちは壊滅しました。陸前高田は妻の出身地であり、妻の母や弟、親戚も犠牲になりました。1800人以上の市民が亡くなり、生き残った人も過酷な状況に置かれている様子を目の当たりにし、陸前高田の地域医療に余生を捧げようと思いました。

幕末・明治時代の蘭方医・関寛齋は73歳で現在の北海道十勝・陸別町に入植、その後10年にわたり開拓と医療に携わりましたが、「空しく楽隠居たる生活し、以て安逸を得て死を待つは、此れ人たるの本分たらざるを悟る事あり」という言葉を残しています。つまり、漫然と隠居生活を送るのは、本来の人として

の生き方ではないという。こと。私も74歳で陸前高田に来ました。

——この10年で、延べ14万人を超える患者さんを診てこられました。多くの被災者の方をはじめ気仙地域の患者さんを診察してきました。済生会内外の医療機関の整形外科からも毎週診療応援に来ていただいております。大変ありがたいことです。

また、この10年で56人の患者さんを在宅で看取りました。在宅診療から介護施設への入所や病院への入院後に看取られた人も多くいます。

——どのような疾患の患者さんが多いのでしょうか。

高年齢の患者さんが多く、県内の男性最高齢者（108歳）の方もいます。認知症や高血圧症、高脂血症、糖尿病、変形性股関節・膝関節症などの疾患が主ですが、その他にも骨髄線維症、サラセミアマイナー（遺伝性の貧血）、心筋梗塞、慢性閉塞性肺疾患（COPD）、各種がん、皮膚科、小児科、産婦人科、精神科、小児科の疾患など……。10年前の10月1日、診療所開設初日に受診者の中に白血病の人がいたことは印象に残っています。



創立10周年記念演奏会終演後、ご家族と診療所スタッフとともに



【上】患者さんの診察では会話をすることも大切にしている 【下】病理診断のために顕微鏡を使うこともある

す。疾患以外にもトゲが刺さった患者さんも来ますし、まさに「総合診療医師」として対応する多様な症例がみられます。

——内科、整形外科の範囲を超えていますね。

この診療所は、典型的な総合診療医師の仕事場です。医療現場は専門領域への分化・分業が進んでいますが、総合診療医師は心臓だろうと、肝臓だろうと、血液だろうと、内科や外科の区別なく全部に対応します。その場ですぐに検査をして即断即決、正確な診断に早く到達することが重要だと考えています。

また、被災地として、心のケアも継続的に必要だと感じています。震災時の辛い思いを、何年も経ってから少しずつ話せるようになった人もいます。

——長い医師人生の中で陸前高田診療所での10年をどのように感じていますか。

東京の日大医学部を卒業後、駿河台日大病院を経て、これまで栃木・自治医科大学での研究活動、茨城・常陸大宮済生会病院の創立に関わるなど、場所を移りながら常に新しい世界を目指して力を尽くしてきました。陸前高田に来たのもそうした流れで考えると、この診療所では医療にとどまらず、生活支援も含めた地域包括ケアの場をつくることを目指してきた10年でした。

——現在は街も少しずつできてきて、診療所は地域住民にとってなくてはならないもの、つながりの場にもなっているのではないのでしょうか。

当初は「こんな何もないところはどうして診療所を作ったの」と言われたこともありましたが、ヨーロッパでは、教会や病院がある周辺に家が建ち、街ができる。何もないか



診療では天台宗宗祖・最澄の言葉「忘己利他（己を忘れて他を利するは慈善の極み成り）」の精神を大事にしている

らこそ、ここに皆が帰ってくるために診療所を設立したのです。済生勅語の中に書かれている、無告の窮民（困っていることを告げることもできない人）にも施薬救療（無償で治療すること）によって支援することはもちろんですが、「衆庶ラシテ頼ル所アラシムコトヲ期セヨ」、つまり、地域にとって頼れる存在になるということが一番重要だと思っています。

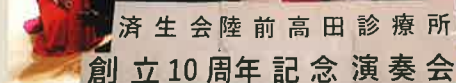
——本誌2015年12月号では「棺桶に入る前日まで働く。あと20年は続ける」と話していました。そのお考えに変わりはありますか。

私は常に新しい世界を目指してきました。陸前高田診療所開設から10年が経ち、新しいことに挑戦したい気持ちもあります。が、まだまだ診療をやらなければいけないと感じています。



東日本大震災被災地の復興を支援し、地域医療を支え続けてきた陸前高田診療所。震災から開設、そしてそれからの10年のあゆみを振り返ります。

カルテ番号 1 万人目の患者さん (右から 2 人目) とともに。カル
テの登録者数は 2022 年 10 月、陸前高田市の総人口約 1 万 8000
人の半分以上を上回る 1 万人に
▶機関誌 済生 2022 年 11 月号 P41



陸前高田市民文化会館・奇跡の一本松ホールで地域住民など約600人が日本とイタリアの歌やオペラを楽しんだ
 機関誌 済生 2025年8月号 P22

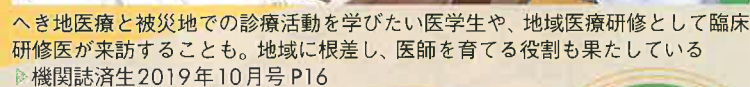
2025年6月15日
創立10周年記念
演奏会を開催

2025年10月
創立10周年。
そして

これからも“復興診療所”として、
地域住民が安心して暮らせるま
ちづくりを推進していきます



8年前(右)と現在のまちの変化「泉増寺から診療所をのぞむ」



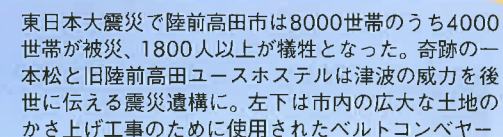
2023年4月
春の叙勲で
伊東所長が
瑞宝小綬章

2022年10月7日
新患登録者数
1万人達成

2019年8月
東北医科薬科大学
医学実習受け入れ

臨床検査医学や超音波医学の教育・研究に長年尽力された功績が評価され、伊東統一所長が2023年春の叙勲で瑞宝小綬章を受章
 ニュース済生 2023年5月号

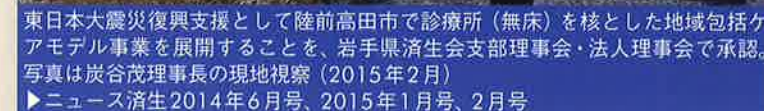
2011年3月11日
東日本大震災発生



2011年9月5日
「東日本大震災復興
支援特別委員会」
初会合

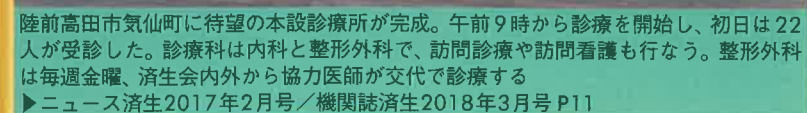
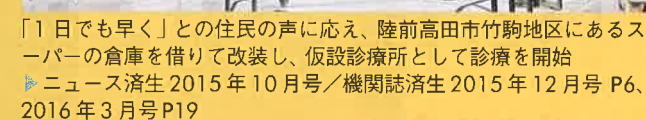
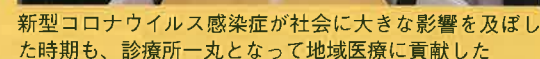
被災地への済生会独自の継続
的支援策を検討
▶ ニュース済生2011年9月号

2014年5月
陸前高田市への
診療所開設を決定



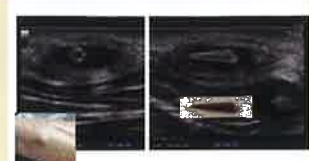
2017年2月15日
本設の診療所で
診療開始

2015年10月1日
仮設診療所を
オープン



データ & 図でみる 陸前高田診療所

診療所を中心にまちができるように——“復興診療所”の開設当初の思いは、その建物や設備にも表れています。さまざまな検査機器をそろえた総合診療の場であるとともに、吹き抜けのある明るい待合ホールでは患者さんたちが近況を語り合うなど、地域交流の場にもなっています。



■超音波診断装置
自治医科大学で臨床検査医学教授を務めた伊東所長。診療所では腕に刺さった4ミリのバラのトゲをエコーで探し出したこともある



■X線一般撮影装置
変形性膝関節症、前立腺がん骨転移、癒合椎などを診断した



■待合ホール
吹き抜け天井から差し込む自然光と住民手作りの置物などでいつも明るい待合室。演奏会が開かれることもある



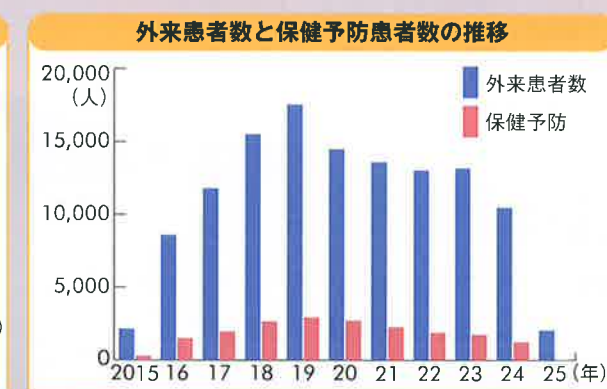
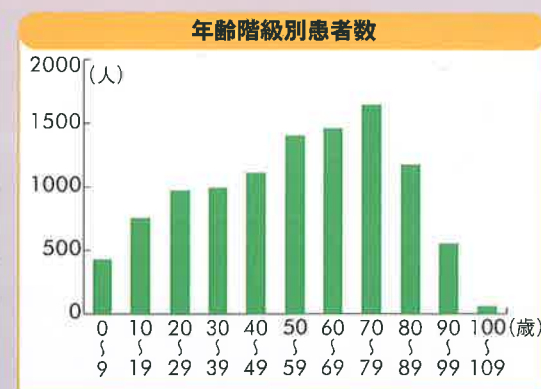
■内視鏡システム
食道炎、食道ポリープ、食道がん、胃潰瘍、胃がん、粘膜下腫瘍、アニサキスなどを診断した



■処置・点滴室 検査室
患者さんが受診したその日のうちに血液や尿の検査結果が分かる「臨床科学分析装置」(左下)。感染症や貧血の有無などを調べる「自動血球計数装置」(中央下)。慢性閉塞性肺疾患の診断や肺年齢を測定する「呼吸器検査装置」(右下)

累計

計患者数は2025年5月までで14万人を超え、カルテ番号は1万1200人に達する。年齢階級別にみると高齢者世代が多く、90代や100歳以上の患者もいる





菅野静子さんは創立10周年記念演奏会・「お手伝い隊」メンバーの一人。高台にあった自宅は津波をまぬがれたが、市役所職員の息子さんを亡くした。

菅野静子さんは創立10周年記念演奏会・「お手伝い隊」メンバーの一人。高台にあった自宅は津波をまぬがれたが、市役所職員の息子さんを亡くした。

息子も亡くし、一瞬にして運命が変わってしまったと感じていますが、私だけではなく、ここにはそんな人がたくさんいます。

待合室は和やかで懐かしい雰囲気

仮 設の診療所ができて1年ほどした頃、膝が痛くて受診したのが最初でしょうか。伊東先生の奥様のカツ子さんも来ていて、待合室でお話したりして、和やかで懐かしい雰囲気を感しました。現在も定期的に診てもらっています。

陸前高田は過去にも津波の被害を何度も受けている地域で、チリ地震津波（1960年5月）は当時高校生だった私の記憶に強く残っています。東日本大震災発生時は市中心部に出かけ、過去の事例からこれは津波が来る……と思いつきに帰路につきました。津波が川を遡上すると言いますけど、この時はもう、海がそのまま押し寄せてきたような感じです。多くの人が命を失って逃げ、うちで30人ほど避難者を受け入れました。電力がない中、薪ストーブで暖を取ったり、大きな釜でご飯を炊いたりしました。



2018年3月24日の本設1周年記念ピアノ演奏会では85人が集まり、美しい音色に癒やされた。

先生や皆に楽しんでもらうために「お手伝い隊」結成

伊 東先生の奥様・カツ子さんとは子どもの頃から親交があり、そのつながりもあって陸前高田診療所を受診するように。手にトゲが刺さったときも、犬に噛まれたときも、伊東先生には何でも診てもらっています。これまでは大きな病院の院長をやっていた伊東先生も、ここに来たら一人の「まちのお医者さん」。夜中に『背中がかゆいんだけどどうしたらいいか』なんて相談電話がかかってくるほど、地域の皆に頼りにされ、親しまれています。

2023年春に伊東先生が叙勲されたときに『先生のお祝いがしたい』と患者たちの間で声が上がって、『先生を笑わせよう』を合言葉に、皆で祝賀会を企画しました。80人の予定が120人も集まり、堅苦しい挨拶はほどほどに、歌ったり踊ったり、盛りだくさんの出し物で3時間の大宴会に。震災でバラバラになった人たちが一堂に会する機会にもなりました。

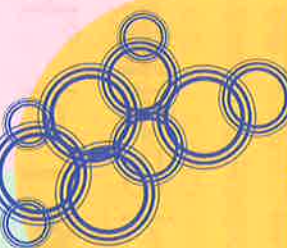
2025年6月の10周年記念演奏会では、あくまで済生会が主役で、私たちは企画の実行をフォローするという立ち位置なので「お手伝い隊」。伊東先生のためにできることをしたいと15人ほどが集まり、「どうやったら楽しんでもらえるだろうか」と皆でアイデアを出し合っています。



市内で布団店を営む菅野幾夫さん。10周年記念演奏会の運営を支えた患者さん中心のボランティア「お手伝い隊」のリーダー。

地域の“よりどころ”として

病気を診るだけでなく、住民同士がつながる「まちづくり」の場にもなっている陸前高田診療所。地域の皆さんに診療所との関わり、震災時のことなどを聞きました。



陸前高田診療所開設10年



陸前高田診療所を支えるスタッフの皆さん

手探りの中のまちづくり

伊 療機関にかかりたくても近くにないという状況は市としても課題だったのですが、いち早く陸前高田診療所ができてとても助かっています。私も家族も診てもらっています。超音波検査などもすぐにやってもらえますし、ありがたいことです。（菅野誠さん）

震災後はさまざまな自治体から多くの応援職員に来ていた

き、復興事業に尽力してきました。大規模な土地のかさ上げを行ない、住民に高台へ移転していただく防災集団移転促進事業ではコミュニティ単位での移転を目指したのですが、造成工事に時間がかかり、市外へ転出する住民も多くなっています。現在は市で「土地活用推進課」を立ち上げ、空き地問題への対策や、市内外からの移住者誘致策（10年居住したら土地を無償譲渡する仕組み）などの検討を進めています。（菅野誠さん・黒澤裕昭さん）



陸前高田市役所最上階から街並みを望む



陸前高田市役所の職員として復興事業を進めてきた菅野誠さん（右：陸前高田市建設部建設課部長）と黒澤裕昭さん（左：企画部企画政策課長）

診療所に通い続けて辛いことも話せるように

陸 前高田診療所は仮設オープン頃から定期的に受診しています。診療所の存在をひとことで言うと「よりどころ」。病気だから行くというよりは、話をしに行っているかんじ。伊東先生にはこれからも健康でいてもらって、診療所を続けてほしいです。

震災の日は市指定の避難所に避難していましたが、そこで津波に流されました。何度も浮かんでは渦に引き込まれ、漂流中に細いツバキの木が見えたので必死でつかまって、何とか一命を取りとめたという状況です。農業の作業小屋があったので、その中でたまたま見つけたタオルケットや農業用の黒いビニールを体に巻いたり、畑に捨てられていたジャガイモを焚き火に入れて焼いて食べたりして暖をとりました。津波のヘドロを飲んで影響で、翌日には熱が出て、肺炎の一手手前と言われました。今でも咳や痰が出ます。



津波に遭い九死に一生を得た村上肇さん。仲間を助けられなかったことを悔やんで辛い日々を過ごしていたが、診療所に通う中で徐々に話ができるようになった。

近くに診療所があり心強い

く も膜下出血の夫が87歳で亡くなるまで、昨年5月ほど訪問診療で伊東先生にお世話になりました。2週間に1回くらいの訪問でしたが、発熱があるなどで電話をするとすぐに診に来てくださるので、安心でした。私自身も現在毎週先生に診てもらっていますが、診察よりも世間話の時間の方が長いくらいです（笑）。（山口洋子さん）。やっぱり、近くにお医者さんがいるというのは、心強いですね。（河野和子さん）



高台移転をした後、伊東所長の訪問診療のもと、夫を在宅で看取った山口洋子さん（左）。ご近所でお子さんが同級生という河野和子さん（右）と親しい。

診療所にある 三つの石



陸 前高田診療所開設10年。カルテ番号は1万1200人、延患者数は14万人に達し、済生会内外の医師が診療に駆けつけます。サポートするのは医師だけでなく、看護師、事務員、診療所は住民同士がつながる場にもなっています。

その診療所の敷地には三つの石があります。一つは「忘己利他」の碑（P9参照）。自治医科大学の中尾喜久初代学長の書です。「己」を忘れて

他を利用するは慈悲の極み成り」という意味で天台宗宗祖・最澄の言葉だそうです。

二つ目は「千葉周作生誕の地」の碑。自らの剣術理論に基づいて「北辰一刀流」を創始、勝海舟や坂本龍馬など明治維新に関わる多くの人物が影響を受けたと言われています。

三つ目は「さざれ石」。細かく小さな石が集まって大きな岩



となる姿は自然の現象が未永い平和と繁栄の象徴として捉えられています。

診療所のさざれ石には、集まった砂利の隙間にさまざまな植



植物の種がわずかな隙間に入り込み、土壌がほとんどない過酷な環境に発芽し成長する。逆境にも負けずに生き抜く強さを感じる

物が根を張っていました。陸前高田に暮らす人や住民を支援する人の「生きる力」を表しているように感じました。

の雰囲気によさやスタッフの人の柄、明るさもあって仕事がいやなく、今は行くことが生活の一部のようになっていきます。

患者さんとのつながりもでき、毎回来う患者さんいます。このような機会をいただけたことに感謝し、今後も可能な限りお手伝いしたいと考えています。



武内医師
〈長野〉武内整形外科クリニック院長（元・済生会湘南平塚病院院長）・武内典夫さんは2019年12月から1回、陸前高田を訪れている。「伊東先生が頑張っている中、応援しようという思いが皆にあります」と語る



杉山医師
宇都宮病院整形外科医の杉山由さんは、陸前高田での診療応援は今回が初めて。若手医師にとって、都市部の大きな病院では経験しにくい、地域の中での医療現場を経験する貴重な機会となっている



“チーム済生”で一丸となって診療応援 地域医療を継続して支えていくために

陸 前高田診療所では毎週金曜日、済生会内外から整形外科医師が派遣され、交代で診療にあたっています。山形済生病院は診療所開設当初から現在まで継続して医師を派遣。開設10周年の今、濱崎允山形県済生会支部長、山形済生病院・石井政次院長と石垣大介整形外科部長に開始当時のことや今後について聞きました。

診療所の開設当初から、山形済生病院が中心になって診療応援を行なっている経緯について教えてください。

濱崎 当時院長だった私は済生会の院長会の副会長も務めており、その会で整形外科医の派遣が決まりました。当院は全面的に協力することとし、組織としてもスタッフに

も「行くのが当然」という文化が醸成され、現在も受け継がれています。

診療応援を続けるために、病院として工夫していることや思いなどありますか。

石井 千葉克司医師（現みゆき会病院整形外科診療部長）と、当院の石垣大介副院長・整形外科診療部長の2人体制にして、個人の負担を軽減しています。



石垣部長
「診療応援にあたっては同じ東北地方としての絆、東北魂も強く感じています」

石垣 患者さんが増えてきて、1日に80〜100人くらい診察することもありますので、へき地医療に触れてもらう目的で、若手の医師に行なってもらうこともあります。



千葉医師
〈山形〉みゆき会病院・千葉克司整形外科診療部長は診療所開設第1回の整形外科診療から協力し、山形済生病院から同院に所属が変わった後も診療応援を継続

を支援していくことが重要ですね。

濱崎 そのためには、地域の医療機関との連携もさることながら、継続という意味では、診療所としての機能強化も必要です。整形外科の常勤医師がいればやれることが広がるし、リハビリを行なう療法士がいれば総合療

法ができ、生活のアドバイスも充実できます。心のケアも引き続き考えていく必要があると思っています。

10年で約60回 リピーターの患者さんも

第1回の診療応援から継続して行なっている千葉先生は、

岩手が地元だとお伺いしました。

千葉 私は岩手県奥州市の出身で、（奇跡の一本松がある）高田松原が一番近い海でした。家族で何度も訪れた場所で、特に思い入れがあります。震災後、自分に何かできることはないだろうかと考えていたときに、当時の勤務先・山形済生病院を挙げて支援させてもらえる機会を得ました。

第1回から今まで、10年間続けてきた思いを聞かせてください。

千葉 継続して2カ月に1回ほど通っていますが、使命感といった立派な話ではなく、診療所



〈神奈川〉横浜市南部病院 7年ぶりに済生会フェア



子どもたちに医療の魅力発信

見学し、「薬ってこんなにあるんだ」「ドラマで見たことのあるやつだ!」との驚きの声が上がりました。臨床検査技師体験では疑似腕を用いた採血体験やエコー(超音波)体験、自身の口内細胞の顕微鏡観察等を実施し、大盛況な様子でした。

ほかにも、横浜市東部病院から救急車を譲り受け、譲渡式も開催。消防車やパトカー、起震車の見学、薬剤部職員親子の津軽三味線コンサートやアイドルグループ「NEOアラモード」で活躍している医者アイドル・北村舞香さんによるスペシャルライブ、北海道済生会が製作するフィギュア入り缶詰「おたる水族館」ワークショップや病院マスコットキャラクターを決める投票もあり、親子で楽しめるコーナーも多く実施されました。

来場者からは「将来、看護師さんになりたい」「子どもにとって医療を勉強する良い機会になった」との感想がありました。

済生会フェアで撮影した写真を用いたモザイクアートを後日、院内に掲出する予定です。ぜひご覧ください。

(本部広報課 杉山菜央)

横浜市南部病院で9月23日、「子どものためのオープンホスピタル」をテーマに済生会フェアを開催し、延べ約5000人以上が来場しました。午前10時に猿渡力院長が屋内ステージにて開会挨拶、病院の役割を住民により一層知ってもらうため、新病院の計画や医療機器の展示、病院で働く多様な職種を紹介を行いました。

この日は子どもたちが医療従事者に興味を持ってもらうイベントが盛りだくさん。腹腔鏡手術体験やお菓子を使った調剤体験、MRIの磁場体験も行いました。病院探検ツアーでは普段、関係者以外は見られない薬剤室や手術室を

未来の 医療者を輩出?!

実際に見て・聞いて・
体験するフェア

第23回全国済生会在宅サービス協議会報告

地域に根差した総合的な在宅ケアサービスを

会長（唐津医療福祉センター総長） 園田孝志

全国済生会在宅サービス協議会が、〈山口〉下関総合病院・下関市豊浦地域ケアセンターの担当で、7月12日に下関市で開催され、123事業所から166人が参加しました。

部会でのグループ討議では、メインテーマの「地域に根差した総合的な在宅ケアサービスの推進を目指して」に加え、「地域連携」「人材確保」「多様な家族背景」の小テーマに沿って議論を進行。各地域での取り組みを確認したほか、「ハラスメント」や「事業の継続性」などについても有意義な意見交換が行われました。



部会後のシンポジウムは、〈愛媛〉松山老健にぎたつ苑・山本昌也苑長が座長を務め、五つの部会長が部会での討議内容を報告しました。今回から新たに「部会記録シート」を作成することに。次年度以降も部会で討議した内容や課題点を継続性を持って取り組むことができることを期待しています。

今回は〈大阪〉中津医療福祉センターと泉南医療福祉センターの担当で、2026年7月18日に大阪市で開催予定です。

訪問看護ステーション部会 災害やハラスメントへの対策を議論

〈千葉〉済生会ならしの訪問看護ステーション 所長 加藤晴子

46施設から53人が参加し、「済生会訪問看護ステーションのBCPを考えよう」「ハラスメントから職員を守る取り組みを考えよう」というテーマで活発な意見交換を行いました。

災害対策はワーキンググループも立ち上げ、3年続けて取り組んできた課題です。より踏み込んだ結果を出したいと考え、部会の2日前に山田憲彦航空自

地域包括・在宅介護支援センター部会 多方面への業務展開に対応するために

〈東京〉港区立南麻布地域包括支援センター 社会福祉士 佐藤志穂子

14施設から各一人ずつ参加し、昨年度同様、各施設で発行している機関紙やチラシ資料を持ち寄り、施設の取り組み等情報交換をしました。

当部会に所属する事業所の特徴として、国から示される新しい事業を展開しなければならぬことが挙げられます。日々の



業務に加え、新たに認知症支援

問できないことや、安全を確認してから訪問再開とすることなどを結論としました。また、これらを契約書・重要事項説明書に明記することも決定しました。

次に「ハラスメント」については、ハラスメントが起きた際は文書で通告することや、ハラスメントを受けたスタッフが話をしやすい環境をつくるなど具体的な対策が挙げられました。



や、重層的支援体制整備事業の構成員としての業務も行なっています。その際に表面化して人材育成や各機関との連携強化などへの対応について情報共有しました。

これらの事業を推進していく

訪問介護事業所部会 得られた知見を業務発展に生かす

〈埼玉〉済生会ケアステーションなでしこ 管理者 福田亜希

12施設から13人が参加し、全部会共通のテーマなどについて、

地域連携は在宅サービスにお

居宅介護支援事業所部会 各事業所の工夫を共有し議論交わす

〈愛媛〉今治指定居宅介護支援事業所さいせい 管理者 中村一人

25施設から26人が参加し、四つのグループに分かれて協議会の全部会共通のテーマについて意見を交わしました。

「地域連携」のテーマでは「なぜ地域連携は語られ続けるのか」を切り口に、年代ごとに意味合いが少しずつ変わり、その時々状況に応じて地域連携が課題となり、語られるのだという結論に至りました。

「人材確保」では処遇改善を求める声とともに、各事業所自ら取り組みを工夫しているものとして、福利厚生や休暇の取りやすさを整える工夫で離職を防いでいる事例が共有されました。

「多様な家族背景」については外国人対応の増加や家族関係の希薄化、LGBTQへの配慮



など都市部以外でも各地で新たな課題が挙がりました。

さらに、部会終了後も一部のグループでは災害時対応について意見交換が続く、実りある情報共有の場となりました。

通所介護・通所リハビリ部会 人員確保や安定経営のため具体策練る

〈滋賀〉栗東デイサービスセンター 係長 角田耕一郎

26施設から28人が参加し、主に人員不足と経営の安定、それらに伴うハラスメントリスクを喫緊の課題として議論しました。

人員不足の解消策として、多様な雇用形態（短時間勤務、柔軟なシフト制）や外国人人材の受け入れが提案されました。また、職員が安心して長く働けるように定期面談や個人の成長支



援を通じた職場環境の改善が重

ですが、具体的な工夫や手法について共有。訪問介護の具体的な魅力アピールすることや、未経験者への不安解消なども根本的な課題解決として今後検討する必要性があるとの声がありました。

多様な家族背景については明確な正解はありませんが、知見を共有し課題解決への視座を高めていきたいと考えています。

先般の介護報酬改定で基本報酬がマイナスになった部門ですが、収益確保への取り組みを共有することができ、今回得たさまざまな内容をもとに、今後発



要であると再確認しました。

経営安定化のためには、新規利用者の柔軟な受け入れや既存利用者の満足度向上による継続利用の促進が挙げられました。

また、ハラスメント対策では、相談窓口の設置と組織全体で一貫した対応が不可欠との意見が出ました。

今回の部会では、それぞれのテーマについて意見を出し合い、具体的な対策の情報交換ができ、大変有意義な時間となりました。

高齢受刑者への対応を踏まえ 刑務官が介護福祉施設を見学

山口地域ケアセンター

近年、刑務所では受刑者の高齢化が進み、介護や認知症対応が求められるなど想定外の課題が生じています。こうした状況を受け、山口刑務所の要望で介護福祉施設の見学が企画されました。

第1回は9月8日、特養おとどの里で実施され、刑務官6人が参加。おとどの里の設備や認知症予防のレクリエーションなどについて説明



し、個室設計や支援方法に関心が寄せられました。

第2回は9月12日に障害者支援施設なでしこ園で実施され、刑務官5人が参加。なでしこ園での作業困難な利用者さんへの支援や意欲維持の工夫にはどんな声かけをしているかなど、質問は多岐にわたりました。

参加した刑務官からは「学びを業務に生かせる」「高齢受刑

小樽市初のフリースクール開設 第3の居場所での学習支援

北海道済生会

5月26日、小樽市内で初となるフリースクールを開設しました。不登校児童は全国的に増加傾向にあり、その傾向は小樽市でも同様となっています。そこで、学校と家庭に次ぐ、第3の居場所づくりとして、また不登校による学習の遅れを取り戻すための学習支援の場としてフリースクールを開設しました。

スタッフには令和7年2月に定年退職した元高校教諭の小嶋仁章さんを採用。平日10時〜17時を基本として生徒が来たい

者対応の参考になる」との声があり、相互の現場理解やつながりを深める有意義な機会となりました。

(済生記者 楊 玉華)



医療×衣料の協働プロジェクト始動



超高齢社会や単身世帯の増加に伴う多様なニーズに対応するため、ユニクロららぽーと湘南平塚店と「医療×衣料」の協働プロジェクトを始動しました。患者さんや家族に対して衣類を通じた生活支援を提案する目的で、当院のリハビリテーション部・介護福祉士・事務部、済生会本部スタッフ、ユニクロららぽーと湘南平塚店の店舗スタッフおよび本社ダイバーシティ推進室と協働して取り組んでいます。

4月15日に当院での打ち合わせ、7月31日にはユニクロららぽーと湘南平塚店での現地打ち合わせを実施。医療・介護の視点から、入院や施設に入所する人への衣料の選び方に関するアドバイスを共有し、患者さんに安心して勧められるような衣類を紹介するツール作成の土台を築きました。

また、医療現場での日常生活や患者さんのニーズを踏まえた具体的な意見交換を行ない、ユニクロ側からも、入院を機に衣

類を購入する人が来店した際、提案できる商品についての知識を対応に生かしたいという話がありました。

9月6日には三井ショッピングモールららぽーと湘南平塚で行なった健康フェア(P37参照)で、ユニクロと協働して入院やリハビリ時に適した衣服を展示しました。

これは、大型商業施設が隣接する立地の強みを生かし、

患者さんや家族が入院中も退院後も無理なく心地よく過ごせる環境を整えます。医療と衣料が垣根を越えてつな

がることで、地域の皆さんの暮らしをよりよく支える仕組みづくりを、協働して築いていきます。

(済生記者 川崎菜美)



〈神奈川〉 湘南平塚病院

初めての子ども食堂 おいしい食事で地域の力に

〈福岡〉老健大牟田ライフケア院



8月20日、近隣住民を対象に子ども食堂「さいせい食堂」を開催しました。
当施設は地域交流センターを併設し、サロンなどを開催して地域コミュニティの活性化を図っています。当施設の近隣校区では子ども食堂が実施されていないことを踏まえ、今回初めて子ども食堂を企画しました。孤食を解消し、子どもたちの健やかな暮らしを支え、地域社会

全体のつながりを強めることが目標です。

初めての企画にもかかわらず、当日は子どもたちを中心にその家族や地域住民約50人が参加。大牟田市社会福祉協議会（個人）と朝日屋精肉店から食材の寄付をいただき、カレー・サラダ・デザートを提供しました。
「おいしかった」「お腹いっぱいになった」「また実施してほしい」などの言葉をいただき、笑顔あふれるイベントになりました。
（支援相談員係長 伊藤絵梨香）

ブリッド形式で計155人が参加しました。
当日は立教大学社会デザイン研究所の星野哲さんによる講演と、カマチグループによる発表がありました。
今回コラボしたカマチグループは、2023年に「身寄り」に課題を抱える方の支援プロジェクト」を発足。急変時対応から退院後の生活支援までを網羅した独自マニュアルを整備しました。さらに多職種チームが患者さんの孤立防止と地域とのつ



会的孤立は全国共通の課題であり、済生会としても行政や地域と連携し、「誰ひとり取り残さない」の理念を具体化していくことが期待されます。
（千葉・習志野病院 福祉相談室長 村田智美）

「身寄りなし問題」コラボセミナー共催 多職種連携が支援の鍵に

済生会身寄りなし問題研究会

8月23日、済生会身寄りなし問題研究会は〈千葉〉習志野病院8階講堂でカマチグループとコラボセミナーを共催し、ハイ



「女性の自殺」をテーマに講演 誰もひとりにしない支援を目指す

〈栃木〉宇都宮病院



7月23日、ホテルマイステイズ宇都宮で大塚製薬株式会社主催の「栃木県の自殺対策の推進を考える会」が開催され、専門職約50人が参加しました。第1回のテーマは「女性の自殺」。稲見一美地域連携課長（MSW）が「ひとりじゃない」を伝える「女性支援の現場から」と題して講演を行いました。稲見課長は、自殺の背景には性暴力や家庭内暴力（DV）、

経済的困窮、孤独、孤立、心の傷などが複雑に絡み合っていることを説明。性暴力では加害者が身近な人物であることが多く、被害が密室化・沈黙化しやすい現状や、被害者が自責の念に苛まれ支援を求められない実態を明らかにしました。参加者からは「声にならない苦しみ」に気づくことの大切さを学んだ」「自分たちが

変化の起点になれると感じた」などの感想が寄せられました。
（地域連携課 川田綾香）

って本会が重要な機会であることを実感しました。
（地域連携課 川田綾香）

子育て世帯を対象にした食品配布会 外国人求職者への就業支援にもつなげる

〈栃木〉宇都宮病院



帯ごとのニーズに合わせた食品や生理用品の配布、相談会を実施

米が高くて買えない」「粉ミルクが欲しい」などの声が寄せられました。地元食品会社からはアイス300本の寄付があり、家族でうれしそうに味わう姿も。

また、インドネシア出身の父親からは「日本語がでず仕事が見つからないため、子どもの保育園から退園を迫られている」との相談を受け、後日ハローワークの英語通訳対応の職業相談日を案内。改めて子育て世帯にとって本会が重要な機会であることを実感しました。
（地域連携課 川田綾香）



福井県済生会病院 8回目のフェア



つなげよう ひろげよう 健康の輪

（福井県済生会病院 済生記者 橋本来林）

9月21日、福井県済生会病院で8回目の済生会フェア2025を開催しました。前日までの雨予報で天候が心配されましたが、当日は好天に恵まれ、鷺頭美央福井県済生会会長（福井県副知事）の開会宣言の後イベントがスタート。3600人を超える来場者をお迎えし、多くの笑顔とともに、大盛況のうちに幕を閉じました。

このフェアは、地域の皆さんに医療や健康への関心を深めることを目的に「つなげよう ひろげよう 健康の輪」というテーマのもと2015年から開催しています。今年もお子さんから高齢の方まで幅広い世代が楽しめる企画を多数ご用意しました。

お仕事体験エリアでは、リアルな手術室の再現や腹腔鏡・胃カメラの操作体験、産科医体験ではへその緒に見立てたひもを切ることで、赤ちゃん誕生の瞬間を疑似体験できるなど、医療の現場を身近に感じられる貴重な機会となりました。さらに、骨密度や肌年齢の測定、野菜摂取量のチェックなど、病院ならではの健康企画も来場者到大変好評でした。

ステージエリアでは、職員家族を対象に実施した「子どものお絵かきコンクール」の表彰式を開催。来場者や職員、家族の皆さんが思わず笑顔になるような、元気いっぱいの作品が並び、会場を明るく彩りました。笠原善郎院長も出演した白井淳夫カルテットの和太鼓スクールによる迫力ある演奏など、地域と一体となったステージ企画も大いに盛り上がりました。

さらに、警察署・消防署との連携によるパトカー・消防車・救急車の展示や体験を通じて、「地域の一員として信頼される病院」の姿を広く発信できました。済生会の理念や病院の取り組みに触れていただく貴重な機会となり、地域とのつながりを一層深めるフェアとなりました。

今後も、誰もが安心して暮らせる社会の実現を目指し、「ソーシャライズインクルージョン」という考えのもと、地域住民やパートナー企業と協力しながら、医療・福祉の枠を超えた取り組みを進めてまいります。また済生会は、地域の課題解決に真摯に取り組む、地域の皆様とともに、持続可能で温もりのある地域社会の実現を目指してまいります。

リアルな医療の
現場を体験!!

地域との
つながりを深める

9月21日、福井県済生会病院で8回目の済生会フェア2025を開催しました。前日までの雨予報で天候が心配されましたが、当日は好天に恵まれ、鷺頭美央福井県済生会会長（福井県副知事）の開会宣言の後イベントがスタート。3600人を超える来場者をお迎えし、多くの笑顔とともに、大盛況のうちに幕を閉じました。

このフェアは、地域の皆さんに医療や健康への関心を深めることを目的に「つなげよう ひろげよう 健康の輪」というテーマのもと2015年から開催しています。今年もお子さんから高齢の方まで幅広い世代が楽しめる企画を多数ご用意しました。

お仕事体験エリアでは、リアルな手術室の再現や腹腔鏡・胃カメラの操作体験、産科医体験ではへその緒に見立てたひもを切ることで、赤ちゃん誕生の瞬間を疑似体験できるなど、医療の現場を身近に感じられる貴重な機会となりました。さらに、骨密度や肌年齢の測定、野菜摂取量のチェックなど、病院ならではの健康企画も来場者到大変好評でした。

ステージエリアでは、職員家族を対象に実施した「子どものお絵かきコンクール」の表彰式を開催。来場者や職員、家族の皆さんが思わず笑顔になるような、元気いっぱいの作品が並び、会場を明るく彩りました。笠原善郎院長も出演した白井淳夫カルテットの和太鼓スクールによる迫力ある演奏など、地域と一体となったステージ企画も大いに盛り上がりました。

さらに、警察署・消防署との連携によるパトカー・消防車・救急車の展示や体験を通じて、「地域の一員として信頼される病院」の姿を広く発信できました。済生会の理念や病院の取り組みに触れていただく貴重な機会となり、地域とのつながりを一層深めるフェアとなりました。

今後も、誰もが安心して暮らせる社会の実現を目指し、「ソーシャライズインクルージョン」という考えのもと、地域住民やパートナー企業と協力しながら、医療・福祉の枠を超えた取り組みを進めてまいります。また済生会は、地域の課題解決に真摯に取り組む、地域の皆様とともに、持続可能で温もりのある地域社会の実現を目指してまいります。



Text：みやじまなおみ

Photos：安友康博

Hair & Make-up：橋本庸子

ばかばかしいことに命をかけて38年。 これが私の芝居の道！

大阪芸大に在学中、先輩の古田新太さんにスカウトされ、劇団☆新感線に引っぱり込まれた。「最初は抵抗感があったんです。みんな金髪でツンツンしてるし、見た目も怖いヘヴィメタ集団でしたから。ただ、すごく面白そうだな。アマチュアの舞台とは思えないほどお客さんが盛り上がり、演じる先輩たちも輝い

ていて。言われるがままおかしなことをやり続け、現在に至るという感じです」大阪の小劇場をわかせた学生演劇集団は、やがて東京の大劇場でチケット争奪戦になるほどの人気劇団に。しかし、そんな立場に驕ることなく、「次の舞台はないかもしれない」と思いながらここまでできた。「俳優の

たかだ・しょうこ 1967年生まれ、奈良県出身。大阪芸術大学在学中にスカウトされ、87年『阿修羅城の瞳〜BLOOD GETS IN YOUR EYES』より劇団☆新感線に参加。95年に自身が立ち上げたプロデュースユニット「月影十番勝負」「月影番外地」の公演も定期的に行ない、2016年に『どどめ雪』で第51回紀伊国屋演劇賞個人賞を、25年には第32回読売演劇大賞優秀女優賞を受賞した。劇団公演以外の近年の主な出演作品に、舞台『ペイジルタウンの女神』（25年）『太鼓たたいて笛ふいて』『夫婦パラダイス〜街の灯はそこに〜』『カラカラ天気と五人の紳士』（24年）などがある。

道でやっていこう」と覚悟を決めたのは、劇団参加から12年が経った31歳のときだったという。「いまの自分があることはラッキー以外考えられない。19歳の頃の自分に、『いまだにみんなではかばかしいことをやってるよ。いい未来が待ってるよ』と言っただけなのに、さで、これから劇団☆新感線でやりたいことは？」「ここまでは劇団が大きくなっていくための階段を前を向いて一生懸命上がってきたと思う。ここから一度振り返って、このメンバーで、あの頃みたいにアホらしくて短いお芝居をやってみよう。私はばかばかしいことがやっぱ好きで、そこに命をかけてやりたいんです」



2025年劇団☆新感線45周年興行・秋冬公演 チャンピオンまつり いのうえ歌舞伎 『爆烈忠臣蔵〜桜吹雪 THUNDERSTRUCK』

江戸時代を舞台に、歌舞伎の大作『忠臣蔵』を上演するために愚かしいほどに芝居づくりに情熱を傾け、奔走する演劇人を描く。歌舞伎の名シーンをリスペクトした劇中劇の数々と、これまで劇団が上演してきた45年分の作品をこった煮したセルフパロディ・セルフオマージュの要素が、主宰・いのうえひでのりによる演出で華々しく立ち上がる。

■作：中島かずき ■演出：いのうえひでのり

■出演：古田新太、橋本じゅん、高田聖子、栗根まこと、羽野晶紀、橋本さとし、小池栄子、早乙女太一、向井理 他

【松本公演】2025年9月19日（金）～9月23日（火祝）まつもと市民芸術館

【大阪公演】2025年10月9日（木）～10月23日（木）フェスティバルホール

【東京公演】2025年11月9日（日）～12月26日（金）新橋演舞場

笑いあり、歌、踊り、

立ち回り満載の

エンターテインメント作品で知られる

劇団☆新感線。

記念すべき45周年興行は、

歌舞伎『忠臣蔵』をモチーフに、

体を張った芝居合戦で観客を魅了します。

劇団とともに38年間歩んできた

看板俳優の一人、

高田聖子さんにとっての

劇団☆新感線とは？

Shoko Takada

高田聖子

この人
Vol. 185

口福につぼん

吉井省一

ツギを始めたのは2年半前。お洒落なガラス瓶入りの「パフェ瓶」は上から「濃密芋のスイートポテト」「ダイスカットさつまいも」「スイートポテトクリーム」「安納芋のソース大豆グラノーラ」「紫いもの生クリーム」「紅芋とこし餡のベースト」「金時芋のムース」の7段重ねになっていきます。使っているお芋は、福井県特産ブランドさつま芋である「とみつ金時芋」をはじめ、紅芋・紫芋・安納芋など全国から集めた人気のさつま芋ばかり。このこだわりの素材を使って、



済生会の「病院・施設」がある
県内の市町村

よしい・せいいち 一般社団法人日本作詩家協会理事。コピーライター時代に老舗百貨店の食の通販誌で約30年執筆に携わり、試食した食品の数は1万点を超える。

今年の「山の日」全国大会の開催地は福井県でした。アンバサダーを務める私も出席し、その合間を縫い、三方五湖の見事な景観や永平寺の荘厳な建築物のために息をついたり、取れたての海産物に舌鼓を打ったり、福井をまるごと満喫してきました。

7種のお芋スイーツが1瓶で味わえる幸せ

この可愛いパフェを創案したのは、福井市のお芋スイーツ専門店「フランダースフリッツ」。最近注目されている「瓶スイー

7層のスイートポテトパフェ瓶

熟練の職人さんたちが一層ずつ丹念に積み上げていく、まさに夢のようなスイーツなのです。パフェというと、形を崩さず

に持ち運ぶのがたいへん。こちらなら頑丈な瓶入りなのでその心配も不要。凍らせたものをアウトドアに持ち込んで楽しむことだってできます。もちろん、見た目だけでなく、味や食感も計算して詰められています。

宿泊したホテル近くの福井駅前では、リアルに動く恐竜の模型で、太古の昔へしばしタイムトリップ。同じ福井市で発見したのがさつま芋仕立てのパフェ。昔ながらの素朴な焼き芋など、日本の甘党たちを古くから楽しませ続けてきたさつま芋。その進化の最前線にある豪華かつ美味なるパフェ。スイーツ好きならずとも見逃せない逸品です。



生どら焼き、ロコクッキー芋バターサンド、カヌレアイスなど、バラエティー豊かなお芋スイーツがたくさん



“さつま芋愛”を熱く語る齊藤さん

さつま芋の美味しさを知り尽くした代表・齊藤仁志さんの「さつま芋のすべてを詰め込みました」という言葉は自信たっぷり。どうぞご期待ください。

1層ずつ楽しむもよし
混ぜ合わせるもまたよし

同梱の長めのスプーンを手に、ワクワク感が止まりません。

それでは、①層目の「濃密芋のスイートポテト」から。とにかく旨みが濃厚。しかもとろっとした滑らかな口当たり。



味と食感の変化が楽しめる7層



お芋好きなら通い詰めたくなる、今年5月オープンの実店舗

②層目の「ダイスカットさつまいも」はコロコロしたお芋そのものの食感が楽しめます。

③層目の「スイートポテトクリーム」はとろける食感の中に芋の豊かな風味が感じられます。

④層目の「安納芋ソースグラノーラ」は安納芋の蜜のような甘さがしっとりしみ込んだグラノーラが、7層の中間地点で絶妙なアクセントになっています。



7層のスイートポテトパフェ瓶 4本セット
3,800円(税込・送料別)
賞味期限……商品到着後冷凍約90日(解凍後は冷蔵で当日中)

お取り寄せ・お問い合わせは
flandersfrites [フランダースフリッツ]
〒910-0843 福井県福井市西開発4丁目711
TEL: 0776-50-0262
ホームページ: <https://flanders291.base.shop>

⑤層目の「紫いもの生クリーム」はふわふわした口溶けとともに、紫芋の甘みとやさしい香りがほんのり漂います。

⑥層目の「紅芋とこし餡のベースト」は紅芋の紫色が鮮やか。濃厚ですが、和テイストのきめ細やかさで後味もすっきり。

⑦層目の「金時芋のムース」は芋の風味とともに卵の風味もほのかに感じられ、ムースの口当たりもとても滑らかです。

これら7層を1層ずつ楽しむだけでなく、何層かを混ぜ合わせて自分好みのブレンドにしたり、底からすくって混ぜ合わせてしまうのもあり。

これから、さつま芋がますます恋しくなる季節。おうちで楽しむだけでなく、手土産にしてもきつと喜ばれる逸品です。



秋をいろどる もみじ

作品 いまいみさ



--- 山折り
- - - 谷折り
↺ 裏返す

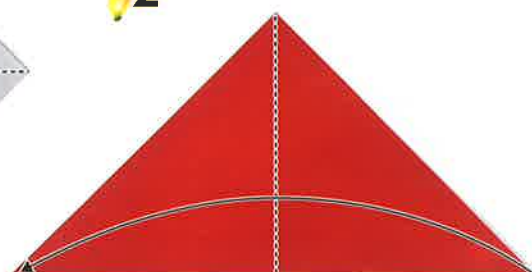
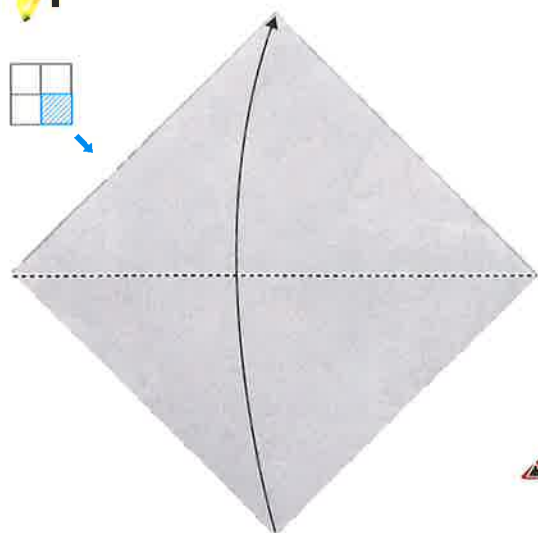
パーツA

1 1/4に切った折り紙を三角に折る



2 半分に折る

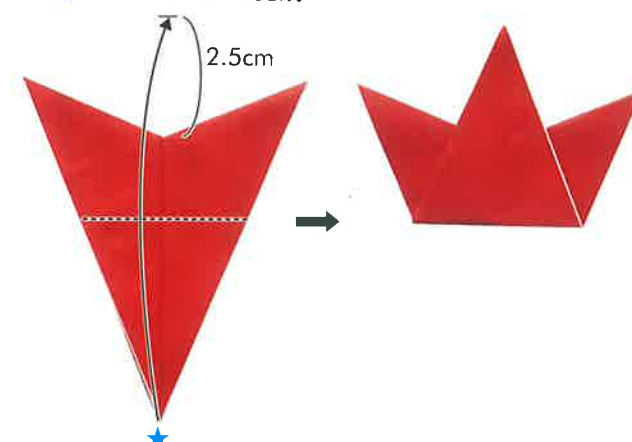
3 図のように辺に合わせて折る



4 上下を逆にする



5 図のように上を2.5cmくらい出るように折り、パーツAが完成



パーツB

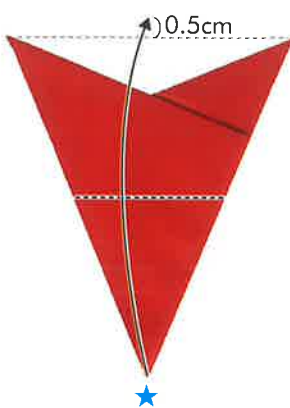
1 1/4に切った折り紙を、パーツAの①〜④までと同じように折り、裏返す



2 上下を逆にする



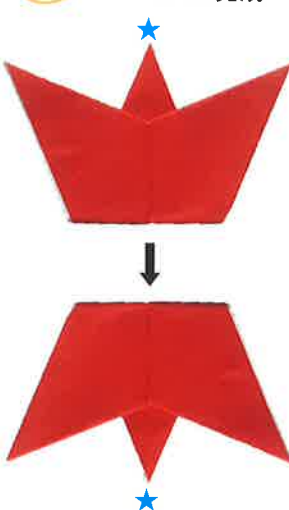
3 図のように0.5cmくらい上に折る



4 裏返す

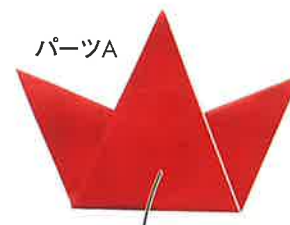


5 上下を逆にしてパーツBが完成



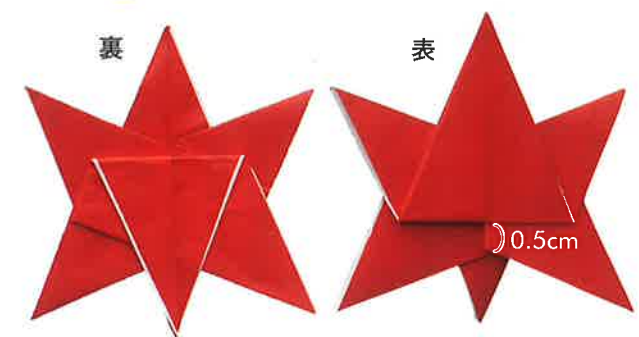
組み方

1 しっかり折り目をつけて、図のようにのりでとめる



パーツB

2 裏をテープでとめて完成



いろんな色で、秋を楽しんでね♡



【いまいみさ】手づくりおもちゃ作家。折り紙や牛乳パックなどをリサイクルして手づくりの楽しさを伝えています。著書に「365日のいい折り紙」(日東書院)、「12か月のおりがみ壁飾り」(講談社)など39冊。最新刊は「1年中使える! 決定版おりがみ図鑑」(講談社)。



動画もcheck!

作品・折り図: いまいみさ おりがみ協力: 株式会社トヨー



関東エリア初！ HAL 拠点研修施設に

神奈川県病院

医療用ロボットスーツ「HAL®」（下肢に装着するリハビリの医療機器）の開発元であるCYBERDYNE株式会社から委託を受け、8月に全国で7施設目、関東エリアでは初めての「HAL 拠点研修施設」に認定されました。また、リハビリテーションセラピスト

一人ひとりが働きやすく 活躍できる病院に

〈神奈川〉横浜市東部病院

8月19日、当院マネジメントセンターで、ナースまつり運営委員会から三角隆彦院長、渡邊輝子看護部長、看護部SNSチームに表彰状と盾、賞金が授与されました。これは7月18日に東京ビッグサイ

科・理学療法士の案西淳技士長と岡部憲明主任が専門講師資格を取得し、院内で安全使用講習を実施できる体制が整いました。当院では、2016年から歩行機能の回復を目指すHALを取り入れ、リハビリに活用してきました。今回の拠点施設認定はその実績と信頼が評価されたものです。今後は他施設スタッフへの研修を通じてHALの安全で効果的な利用を高めるとともに、患者さんに先進技術安心して受けていただけるリハビリを提供していきます。
(済生記者 小山友輝)

トで行なわれた「日本一働きやすい病院 AWARD 2025」で当院看護部 SNS チームが大賞とベストプレゼン賞をダブル受賞した際のものです。
三角院長は「大変名誉な賞。本当に皆さんが日頃一生懸命やってることが証明されたということだと思います。この賞に恥じないようこれからも頑張っていたきたい」とチームに向けて労いの言葉を贈りました。
チームスタッフは「活動を通じて、これまで関わりのなかった職員との交



流を実感するなど SNS による手応えを感じている」と語り、働きやすい病院づくりとさらなる情報発信の継続へ意欲を見せました。(済生記者 荒木愛美)



Bさん(中央左)はAさんとともに以前通っていた生活介護事業所を訪問。大歓迎のスタッフの皆さんとともに

topics

「みんなの夢を叶えたい」 プロジェクト始動！

静岡済生会療育センター令和

今年度、新たな取り組みとして「みんなの夢を叶えたい」プロジェクトが、当センターの活動係によりスタートしました。医療型障害児入所施設・療養介護を行なう当センターでは、利用者さんが心豊かに暮らすために、夢の実現への支援にも取り組みます。

また、同日Bさんは以前通っていた生活介護事業所を訪問し、仲間やスタッフとの再会を果たしました。Bさんのご家族からも「施設に入所しても地域とのつながりを大切にしたい」との声が寄せられました。
今後も、利用者さん一人ひとりの「思い」や「夢」に耳を傾け、夢の実現に取り組んでいきます。
(療育看護課 看護師 山崎靖子)



久しぶりの再会を果たす、Aさんとお母さん

8月21日は第一弾として、Aさんの「お母さんに会いたい」という願いを叶えるため、お母さんの入所先施設を訪問。お母さんに会うことができ、Aさんは「また行きたい」と笑顔を見せてくれ

★心温まる取り組み、すてきですね！利用者さんの夢がもっと叶いますように。
(本部広報課 杉山菜央)

熊本福祉センター

施設見学で将来像を共有

当センターでは毎年、施設見学を積極的に受け入れています。5～8月、内田拠点施設（ほえみ・ウイズ・グループホーム）には支援学校6校の生徒・保護者・教諭、特別支援学級の教諭、福岡県の障がい者支援施設職員、総勢182人が



見学のため来訪。各施設の概要説明後、ほえみ（パン工房、生活介護）、ウイズ（食品加工棟・クリーニング工場）、グループホームで障がい者の就労や生活の様子、職員の支援の様子を見学していただきました。

支援方法や人事制度などの質問がありました。最後に、ほえみパン工房のできたてパンの販売を行ない、和やかな雰囲気の中で見学は終了しました。

（事務員 倉原知沙）

「三重」 松阪総合病院
皆が笑顔になる菓子販売

8月7日、当院が福祉事業所への支援として取り組んでいる、「お菓子工房M」（就労継続支援B型事業所）による職員向けお菓子の販売が行なわれました。



お昼前になるとお目当ての美味

味のお菓子をめぐって、職員食堂前の廊下には黒山の人だかりができました。クッキー、チーズケーキ、シフォンケーキなどがとても好評で、100人以上の職員が購入のために集まりますが、リピーター続出により人気商品はすぐに売り切れに。そのため、事前予約をする職員が増えています。

わずか3時間で、準備した539個のお菓子は完売。この盛況ぶりに、事業所から販売に参加した4人も喜んでいました。お菓子を作る人、販売する人、買う人——全員が笑顔になれる取り組みになっています。

（事務部長 大橋範秀）

「岩手」 岩泉病院
大規模地震に備えて

岩手県保健福祉部医療政策室主催の令和7年度大規模地震時医療活動訓練が、9月6日に実施されました。

当日は18人が参加し、当院からは院長・災害看護師・事務職員・看護師2人の計5人が訓練に参加しました。

本訓練は、DMAT（災害医療チーム）が訪問して被災



状況を分析・整理した上でDMAT活動拠点本部と調整、病院支援活動を行なうという実際の災害時の対応を想定した内容でした。

訓練を通じて、EMIS（広域災害救急医療情報システム）への入力、施設内の設備や物品の配置場所などを確認し「有事の際にはしっかりと動けるような準備が大事」という認識を持ちました。

今後は、この訓練内容を院内で共有し災害発生時に対応できるよう、継続的な訓練につなげていきたいと思っています。

（総看護師長 村上繁子）

企業と協働！
大盛況の健康フェア

〈神奈川〉 湘南平塚病院

9月6日、三井ショッピングモールららぽーと湘南平塚で、ナカジマ薬局と「健康フェア」を共催し、約250人が来場しました。

今年で3年連続3回目の開催

会場では、病院と薬局それぞれのブースが設けられ、当院は「握力測定」「子ども向けゲーム」といった健康ゲームに加え、福祉相談、腰痛・肩こり予防体操など多彩な測定コーナーを実施しました。

ノベルティ200個はほぼ配布を終え、アンケートも全体の満足度が98%と高評価。「子どもも大人も一緒に楽しめた」「体操で体がすっきりした」といった感想も寄せられました。

さらに今年はユニクロとの協働企画として、入院やリハビリ時に適した衣服を展示。会場内の一面に設けられたパネルや衣服展示は、多くの来場者の関心を集めました。

（済生記者 川崎菜美）

「静岡」 特養小籠苑
地域の介護予防で
チエアヨガ出前講座

9月4日、地域の憩いの場に講師として招かれ、チエアヨガ出前講座を行ない、20人が参加しました。

元々は筆者自身がケアのためにヨガに取り組む中で、誰でもできるチエアヨガ（椅子に座って行なうヨガ）に出会いました。

普段は当施設でのレクや地域福祉の場などで活動しています。ヨガが一番大事なのは呼吸です。講座では「ポーズができなくても呼吸ができているれば素晴らしいです」と声をかけながら呼吸の練習から始め、身体をほぐしていくうちに、皆さんとても良

い呼吸になっていきました。最後はおうちでもできるセルフマッサージを伝授しました。最初はこわばった表情の皆さんも笑顔になり「体が軽くなった」「リラックスできた」という声も。地域の皆さんがさらに元気になるよう、機会を見つけて伝えていきます。

（介護サービス課 池谷智恵美）



〈富山〉幼保連携型認定
こども園でしご保育園

プラネタリウムの
星空にうつり

6月17日、年長児24人で富山市科学博物館にプラネタリウム見学に出かけました。博物館までは公共の路線バスを利用。車掌さんに「お願いします」と挨拶、初めての体験にドキドキしながらも静かに楽しく乗車することができました。

到着後、まず迎えてくれた大きな恐竜の模型に「大きい！」と圧倒された子どもたち。展示



や体験コーナーでの実験を通して身近な自然現象について理解し、科学に触れることができました。プラネタリウム見学では、暗闇に星が輝くと



「わあ……！」と子どもたちの目はうつり。学芸員に星座の名前や七夕の由来、月について歌や物語を交えて教えてもらいました。

帰り道には「星きれいだったね」「ママに月のことお話しする！」との声が飛び交い、楽しい思い出がまた一つ増えました。(済生記者 宮本亜実)

福井県済生会病院

血糖変動の可視化で
2週間の健康チャレンジ

8月後半、職員の健康増進を目的として持続血糖測定器「リブレ」を活用した取り組みを実



施し、108人の職員が参加しました。昨年度には特定保健指導を受けた職員に対し「リブレ」の装着を提案。さらに、福井県が推進する「血糖変動に働き合う2週間プログラム」に賛同し、この取り組みを本格的に導入することとなりました。

「リブレ」は腕の皮膚に貼るだけで血糖値を連続的に記録でき、スマートフォンで簡単に確認できます。参加者からは「血糖値の変動が見えることで、具体的な対策が立てられる」といった声が寄せられました。

産業保健スタッフの看護師・細川清子さんは「自分の健康や疾病に気づききっかけとなり、予防を通じて意識づけができる。

病院として職員が長く働ける環境づくりにもつながる」と語っています。(済生記者 橋本来林)

〈大阪〉富田林病院
認知症の身近な不安への
対応策を解説

8月7日、「認知症は誰でもなりうる病気」みんなで支えれ



ば怖くない」と題し、株式会社URコミュニティと富田林病院共催の「認知症講座」を金剛団地第4集会所で開催しました。

当院の認知症看護認定看護師

である小西看護師が講義を担当し、認知症の早期発見や症状・進行に伴う困りごと、適切な対応方法などについて、当人や家族の視点から深く解説しました。参加した24人の地域住民の方からは「一人住まいでの不安」「知人の認知症への対応」など、身近な問題に対する質問が多く

寄せられました。当院の認定看護師に加えて、MSWや社会福祉協議会の職員などからも地域全体での支え合いや地域包括支援センターへの相談を推奨するなど、具体的な対応策が説明されました。(済生記者 島崎寛将)

TAVI施行件数が300例を突破！

福岡総合病院

行なっています。

今後も一人ひとりの患者さんに寄り添った、最善の弁膜症治療を提供できるよう努めてまいります。(済生記者 雷永朋美)

〈三重〉松阪総合病院

灼熱と情熱の球場で
メディカルサポート

7月24日と26日、第107回全国高等学校野球選手権三重大会の準決勝・決勝に、当院職員5人がメディカルサポートとして参加しました。これは、三重県理学療法士会スポーツ支援部で20年以上続く活動です。当日はメディカルサポートと



後列右から4人目が坂本医師

8月27日、心臓血管・大動脈センターで2019年4月から開始した経カテーテル的大動脈弁留置術「TAVI（タビ）」の施行件数が累積300例に到達しました。

昨年には福岡市近郊では2番目となるTAVI専門施設の認定を受け、透析患者さんへのTAVIも可能になっていきます。今年度から指導医である循環器内科・坂本隆史医師を新たに迎え、侵襲の低い総頸動脈からのアプローチも開始しています。

日々進化する弁膜症治療について、最新知識や技術、医療機器などをアップデートしながら、精力的にかつ安全第一に治療を



両日とも複数人への対応を行ない、灼熱と情熱が交差する球場でサポートの大切さを改めて実感しました。次回も全力で支えていきたいと思っています。(リハビリテーション課 主任 堀尾健太)

topics



熱心に話を傾けていました。体験を通じて、生徒の皆さんは医療現場への理解が深まり、将来の進路について具体的なイメージを持つことができたようです。「夢を実現するために勉強を頑張りたい」という力強い言葉も聞かれ、職員にとっても大きな励みになりました。

(看護部課長 藤吉初美)

ました。

生徒たちは済生会、看護師の仕事について

学び、血圧測定やモニター装着、車椅子・ストレッチャーへ乗るなどの体験をして患者さんの気持ちや立場を理解しました。また、院内の薬局や放射線科、リハビリ室などを見学しました。

南棟竣工まで残り約3カ月に迫った9月4日、月一定例の現場確認があり、筆者は設計者、施工者とともに進捗状況の確認を行いました。

外部足場の解体もほぼ終わり、建物の形が見えるようになり、完成に近づいていることが実感できます。

屋上の設備の据え付けも終わり、内部では、壁紙や床の内装工事、建具扉の取り付け、電気空調などの設備工事が順調に進んでいます。それも猛暑の中で建築工事に携わっていただいている工事関係者の方々のおかげであり、感謝しています。

今後は病棟のスタッフセンターの家具造作工事やパーテーション取り付け、院内サイン取り付け

南棟の竣工近づく

山口総合病院



や地域との連携を一層強化し、行政機関や福祉事業所への橋渡しができるハブ機能を担うことを目指します。

入居者・利用者や地域の皆さんが、晴れやかで彩りのある毎日を送らせるよう、職員一丸となって努力していきます。

(施設長 泉川雅俊)

大分県地域生活定着支援センター

地域共生社会を目指して後進指導にも尽力

7月22日から23日間、智泉福祉製菓専門学校（社会福祉士養成施設・大分市）から実習生を1人受け入れました。当センターとしては初めての受け入れで、ソーシャルワーカーのやりがいや、楽しさを指導者として伝えられるのが不安でした。しかし、現場実習で対象者と楽しそうに会話する実習生の姿を見て、胸をなで下ろしました。

また、実習生から「福祉とは何か」という具体的なイメージを持つことができた」「有意義な時間を過ごすことができた」と

判断力とチーム力を実践で高める

(大阪) 泉尾病院

9月7日、当院で6年ぶりに日本救急医学会認定講習会「ICLSコース」を開催し、院内外から18人が受講しました。本コースは医療従事者のための心肺蘇生のトレーニングコースで、突然の心停止に直面した際の「最初の10分」での行動を習得する実践プログラム。BLSやAED操作、電気ショック、気道管理、薬剤投与などをチームで体験し、判断力と連携の大切さを学びます。

受講者は実際に体を動かすことで理解を深め、実践力を身につけました。

受講者からは「体を動かして学ぶことで自信がついた」「自分の課題が明確になった」との声が寄せられました。



(済生記者 高木明日実)



講師も「コースを進めるうちに受講者の表情が生き生きし、自信を持って意見できるようになった。次は教える側としても活躍してほしい」と評価しています。

高校生ふれあい看護体験

(福岡) 大牟田病院

7月10・24日の2日間、近隣4校から11人の高校生が当院で「ふれあい看護体験」を行ないました。

の感想を聞き、実習指導という貴重な体験ができて良かったと心から思いました。

ソーシャルワーカーは日々の支援業務だけでなく、その支援を通して、ソーシャルワークのやりがいを後進に伝えていくことも重要です。地域共生社会を目指して、後進指導にも積極的に取り組みます。

(相談員 黒木晃平)



特養なでしこ香川

開所20周年を花火で祝う

観測史上最も暑かった夏が一段落した9月10日の夕暮れ、全ユニットの入居者さん33人・職員24人が参加して花火大会を行いました。会が進むにつれ夕闇が深まり、打ち上げ花火が弾ける度に歓声が上がり、色とりどりの手持ち花火をそれぞれで楽しみました。

なでしこ香川はこの10月で開所20周年を迎えることができました。今後は、高齢化の進行や利用者ニーズの変化に対応した、当施設のあるべきケアの姿を構築していきたいと考えています。

また、隣接する香川県済生会病院はもとより、福祉・医療施設



京都済生会病院 人間ドック・予防医療学会 4演題を発表

8月22・23日に第66回日本人間ドック・予防医療学会学術大会が22年ぶりに国立京都国際会館で開催され、伊藤義人院長をはじめ健診センターから8人が参加しました。

当院からは、伊藤院長の教育講演「人間ドック・健診従事者が知っておくべきMASLD／MASHなど脂肪性肝疾患の新たな概念」、小林恭子センタ―長の「線毛性前腸肝嚢胞を強く疑った一症例」、幡弘枝看護師の「当院健診センターのフレイル予防の取り組み」、筆者の「健診施設の連携が実現できた情報共有・情報交換ツールの活用」、計4演題を発表。

日常業務と並行して準備を行なうのは大変でしたが、「講演内容の詳細を教えてほしい」「その後の結果も追跡して発表してほしい」と座長や



他施設の方から言っていたいただき、すべてが報われる気がしました。
(健診センター係長 瀬元健太郎)

〈福岡〉二日市病院 小学生在医師・看護師のおしごと体験！

9月13・15日にイオンモール筑紫野で開催された「まちのおしごと体験」イベントで、当院は15日の医師・看護師コーナーを担当しました。

医師の体験では、腹腔鏡下手術の模擬体験、聴診、BLS（一次救命処置）を実施。腹腔鏡下手術体験では鉗子を使ってお菓子のつかみ取りに挑戦しました。子どもたちはスピーディーにくつものお菓子をつかみ取り、保護者やスタッフから拍手が湧き起こると、真剣な表情で取り



組んでいた子どもたちから笑顔がこぼれました。
看護師の体験では、傷の当てや血圧測定を実施。患者役の保護者に声をかけながら丁寧に手当てを行なう姿が印象的でした。

（済生記者 都甲七桜）

〈福岡〉特養聖和園 介護の声かけを工夫し 自分の心も優しく癒やす

7月15日、大野市の多田記念大野有終会館で家族介護教室「ことが届くと心も軽くなる」介護コミュニケーションの工夫とやさしさ」が開催されました。大野市内で家族の介護に携わる方が対象で、69人が参加。聖和園職員の筆者と岡林郁美さんが講師を務め、思いが届きにくい方や難聴のある方、こだわりの強い方への声かけや、介護者自身のストレスを減らす方法を紹介しました。

参加者からは「こだわりの強



い母への接し方が分かり安心した」「自分も穏やかな気持ちで生活したい」といった声が寄せられ、学びを通じて心が軽くなる時間となったようです。講義後の交流会では体験や悩みを分かち合い、笑顔と共感にあふれるひとときとなりました。

（済生記者 野尻 宗）

〈愛媛〉松山乳児保育園 土遊びでどろんこ！

当園は、水・砂・土・木・石・動植物などの自然素材を使って遊ぶことを大切にしています。特に土との遊びは、つかむ、ちぎる、たたく、固めるなど、こねたり丸めたりする過程で手先の器用さが自然に育まれ、つか

む力や微細な動きも発達していきます。

8月4日には土遊びに興味のある2歳児22人が全員参加。そのうちの1人が土山から泥場に向かって滑り始めると、後に続くとばかりに次々に滑り始めます。また、足に塗り始めると真似をし、その中で顔を見合わせ、手になんか塗っていきいます。土に水を混ぜると軟らかくなり、手に塗った土が乾くと硬くなり、剥ける。そうした変化にも子どもたちは気付いています。

全身で遊んだ後は、シャワーでさっぱりして気持ちよく過ごし、夏ならではの遊びを十分に楽しんでいます。

（済生記者 宮内亜希子）



〈大阪〉野江病院 1日看護体験で 看護の魅力を伝える

8月22日、大阪信愛学院高等学校看護医療コースの学生を対象に「1日看護体験」を開催しました。

当日は28人が参加。医療に関心を持つ学生たちが病棟で看護師と一緒に行動し、看護ケアなどを見学しながら看護師の仕事や患者さんとの関わりについて学びました。

参加者からは「看護体験を通して自分の目で見て、聞くことができ、さらに医療に対する興味が深まりました」「現場で働く看護師さんの声を直接聞くことができ、今後の進路選択に役立ちうれしかったです」「患者さんファーストの姿勢がすごいと思いました」などの感想が寄せられました。



今回の体験を通じて看護の魅力を感じたという学生も多く、将来の進路選択に影響を与える有意義な機会となったようです。

（副看護部長 橋口絹代）

〈愛媛〉小田特養緑風荘 こりやうまいわい

内子ライオンズクラブからの招待により、当施設の職員5人と利用者さん8人が9月7日に、観光ふじブドウ園でブドウ狩りに参加しました。

厳しい残暑下でのイベントとなりましたが、利用者さんは約1時間、職員が選んだブドウの甘さや新鮮さを堪能しました。「甘いお」「こりやうまいわい」という感想があり、皆さんの笑顔がとても印象的でした。



中には一房をペロリと平らげる方もいて、その食欲に職員も感心しました。利用者の皆さんは大変満足していて、職員の良い気分転換にもなりました。

10回目のフードドライブ 福井県済生会

福井県済生会ではソーシャルインクルージョンの実現に向け、社会的支援が必要な方々を「食」で応援するフードドライブ活動を2021年から行なっています。

今後機会があれば積極的に参加したいと感じました。



（済生記者 富岡優衣）

山形済生病院 地域の医療機関に向けて

8月27日、地域医療の質の向上と地域の医療機関との連携強化を目的とした「第26回なでしこ勉強会」をオンライン形式で開催しました。腎臓内科の高崎聡診療部長が「慢性腎臓病（CKD）の診療のポイント」特にアルブミン尿・蛋白尿評価の重要性」という演題で講演し、院内外合わせて20人が参加しました。



30分という限られた時間の中で、慢性腎臓病の歴史から最新の治療法・研究結果まで、内容の濃い講演となりました。講演の最後に、腎臓内科への紹介基準についての話もあり、今後の地域医療の連携につながる有意義な会になったと思います。今後も地域医療に貢献できるよう、引き続き研修や交流の機会を大切にしたいです。



受けた方からは「温かいご支援をありがとうございます」といった感謝の声が寄せられています。地域生活定着支援センターの加藤博さんは「多くの職員からの協力で続けることができました。今後も必要な方に支援が届くよう活動を続けます」と話しました。

（済生記者 橋本来林）

にしていきたいと思っています。

（地域連携室 伊藤珠希）

交通安全の旗振り役！ 〈北海道〉みどりの里

7月18日、当施設に入所している利用者さんが「令和7年夏の交通安全運動」に初めて参加しました。

当日は地域の社会貢献活動への参加を目的に、施設前の道路を通行するドライバーさんに向け、交通安全を呼びかける旗振りを実施。約20人の利用者さんがスタッフと共に交通安全を呼びかけ、中には手を振ってくれるド



ライバーさんもしました。今後もこのような社会貢献活動に積極的に参加できないか、利用者さんと一緒に考えていきます。

（済生記者 上野孝嗣）

〈三重〉松阪総合病院 地域の救急医療に貢献し 厚生労働大臣表彰

当院は令和7年度救急医療功労者厚生労働大臣表彰を受賞し、9月9日、厚生労働省で行なわれた表彰式で池田智明病院長が福岡資麿大臣から表彰を受けました。

令和7年度は全国で個人20人、

団体3件、医療機関12件が受賞。本表彰は、長年にわたり地域の救急医療の確保、救急医療対策の推進に貢献した個人や医療機関等の団体の功績を称え、救急医療関係者の意識の高揚を図り、救急医療対策の充実強化を目的とするものです。

当院は、二次救急輪番病院として急性期医療を提供するとともに、地域で唯一の産科機能を有している急性期病院として、24時間の産科救急を担っており、救急救命士の病院実習や就業前研修を積極的に受け入れるなど、地域の救急医療の向上に貢献した取り組みが評価されました。

（済生記者 岩崎貴穂）

急・産科医療功労者厚生労働大臣表彰式



topics



で船体名「済生丸」の文字は見えにくかったですが、乗組員の方から巡回診療のお話をうかがい、普段とは違う船上での研修を楽しみました。

研修翌日に行なわれた報告会では、学生たちは長島愛生園での学びを通して「ハンセン病の方々に対する偏見や差別、隔離生活やその場で生きてきた人々の思いを感じることができた。『偏見や差別は誤解から生まれ

8月28日に施設内で消防訓練を行ない、5人ほどが参加しました。なお、当日は新型コロナウイルス感染症の対策期間中であつたため、通常規模での訓練は中止とし、参加者を新人職員を中心とした簡易的な訓練に変更して行ないました。

訓練では消防設備などの取り扱い方法を学び、実際に訓練用の水消火器を使用して実践しました。水消火器を使用した消火訓練では、①安全栓を引き抜き、②ホースとレバーを握りながら、③火元に向かって放つ、という3ステップの基本操作の確認を行ないました。

筆者も参加しましたが、消火器は重く、取り扱いには注意が必要だと感じました。今後も「火災や災害に備える」意識を持つ

消火器の基本操作を確認

〈新潟〉 特養康和園

〈副校長 毎川京子〉

「と改めて人権について考える機会になった。あらゆる場面で人権を尊重する視点を持ち続けることが、私たち看護学生に求められることだと感じた」と述べていました。



〈佐賀〉唐津医療福祉センター 子ども食堂へ寄付等で支援

9月10日、地域のこども食堂の運営をはじめ生活困窮者の支援や地域の交流促進などを行なっているNPO法人KARATSUの生駒明子代表に寄付金をお渡ししました。

この寄付金は7月31日～8月29日に当センターの職員を対象に募金活動を行なったものです。

唐津市では現在、20カ所程度のこども食堂が活発に運営されています。当センターは活動費の寄付や物品の寄贈、イベントのお手伝いなどを行なうことで側面から支援しています。今年は2月・6月・9月に開催された「からつたらふく子ども食堂」



に済生会地域包括ケア連携士が参加し、お手伝いをしました。

地域の子どもたちが安心して学び続けることができるように、今後もこども支援活動のお手伝いをしていきたいと思っています。

〈済生記者 相島蘭香〉

〈茨城〉水戸済生会総合病院 知って防ごう！心臓病 市民公開講座に314人

8月2日、イオンモール水戸内原で市民公開講座「知って防ごう！心臓病」を開催し、延べ314人が参加しました。

当院はイオンモール水戸内原と「未来に向けた持続可能なまちづくり協定」を結び、同施設で年に数回市民公開講座を開催しています。

今回は、千葉義郎循環器内科主任部長による心臓病予防に関する三つの講演のほか、動脈硬化・心電図測定などの体験、健康相談などを実施しました。

講演では動脈硬化やフレイル、不整脈について一般に向けて分かりやすく解説し、予防方法なども伝え、いずれも大好評でした。参加者からは「自分の住んでいる地域でもぜひ開催してほしい」



ことを心掛けるとともに、定期的な訓練の実施を行なっています。

〈済生記者 山田裕樹〉

〈兵庫〉特養ふじの里・ 小規模特養などしこ神戸 故人を偲んで供養祭

8月7日、ふじの里・などしこ神戸で供養祭を開催しました。昨年7月から今年6月までに20人の利用者さんとお別れがあり、近隣寺の住職に法要を依頼し、故人の7家族11人と、職員・利用者さん約25人が参列しました。

終了後は故人とその家族、職員が共有できる思い出を作りたという職員の発案から毎年発



行している弔辞集「想い出」を配布。故人の施設での写真のスライドショーも見ながら故人を偲びました。

「行き先がなく途方に暮れていたところ」「入所できた時の安堵感」「看取りケアが一旦解除されたときの思い」など、当時の家族の心模様にも触れることができました。

改めて施設全体として専門性を高め、質の高い支援を提供していきたいと強く感じました。

〈兵庫・特養ふじの里 相談課長 南本貴史〉

〈大阪〉中津看護専門学校 済生丸に長島愛生園…… 岡山で特別な研修実施

7月22・23日に当校の3年生33人が看護ゼミナールで岡山県を訪れ、済生丸と国立療養所長島愛生園で研修を行いました。

済生会なら一度は行ってみたい済生丸！ まれに見る干潮



2病院の懸け橋として総合診療医派遣

今年3月から飯塚病院の「総合診療医の派遣プロジェクト」として同院総合診療科の鶴木友都医師が当院に派遣されています。両院間の患者さんのやり取りを円滑にし、同院の平均在院日数短縮や済生会病院の病床稼働率向上が目的です。

鶴木医師は内科系疾患の入院診療を主に担当しつつ、地域医療連携課等と連携して転院調整の効率化に取り組んでいます。その結果、飯塚病院からの患者さんの転院相談から受け入れ可能日返答までの所要日数、転院完了までの平均日数が大幅に短



鶴木医師(左)と関口直孝飯塚嘉穂病院長

〈福岡〉飯塚嘉穂病院

縮。また、これまで受け入れが困難とされていた患者層についても、鶴木医師の判断で積極的に受け入れられるようになりました。

転院患者数も3〜4倍に増加しており、患者さんにとってより最適な医療提供体制の構築につながると考えています。

(経営企画室長 春日勇介)

新潟県央基幹病院

オンラインセミナーで地域の専門職が連携

地域と当院がつながりを持ち、県央圏域の医療介護の専門職等が医学的知識を向上させ実践的な手法を学ぶ機会として、月に1回、オンラインで在宅スキルアップセミナーを開催しています。

8月19日のセミナーでは、がん薬物療法認定看護師が司会を務め、緩和ケア認定看護師が「痛みを我慢させない疼痛コントロールについて」と題して講義を実施。患者さんが感じる痛みの原因や、要因別の痛みの分類な



ど、痛みに関して詳しく解説しました。

当日は132人が参加。前年度から継続的に参加する人も多く、「講義で知った知識を自分の仕事に役立てたい」「各分野のスペシャリストである認定看護師から直接お話が聞けてよかった」など、うれしい感想をたくさんいただきました。

(総務広報課 富澤 環)

〈福岡〉大牟田病院

糖尿病セミナーで発表 来年は当院が開催担当

8月23日、第31回全国済生会糖尿病セミナーが神奈川県・ステーションコンファレンス川崎で開催され、116人が参加し

ました。当院リハビリテーション部は3題の演目について口述発表。糖尿病を基盤とした心不全合併患者への運動処方、肥満症に対する運動療法の症例、高齢糖尿病患者の筋力と歩行能力に着目した報告を行ない、ご意見やご質問をいただきました。他病院



のリハビリスタッフとの交流や他職種の発表も興味深く、得た知見を日々の診療へ生かせるように取り組んでいきます。来年度の第32回セミナーは当

第9回 ブラック・ジャックセミナー



院が担当するため、今回は当院の視察スタッフも参加し、当院世話人が大牟田市の魅力を紹介しました。来年8月22日、久留米シティプラザで皆さんにお会いできるの楽しみにしています。

(リハビリテーション部 副科長 須崎裕二)

〈栃木〉宇都宮病院

医師を目指す第一歩に

8月23日、宇都宮市内の中学生35人を対象に「ブラック・ジャックセミナー」を開催しました。本セミナーは、外科医の仕事をやりたいと感じてもらい、興味を持つきっかけとなること



を目的としています。

当日、受講生は超音波メス体験、手術縫合体験、内視鏡トレーニング、救命救急体験など、実際の医療現場で使用されている機器を活用した全6種類のアクティビティーに挑戦しました。20人を超える外科医・研修医が指導を行ない、受講生たちの真剣な眼差しで取り組む姿、積極的に質問を投げかける姿が見受けられました。

終了後、受講生からは「先生が詳しく説明してくれて楽しく学ぶことができた」「外科医に興味を持った」といった声が多く寄せられ、医療の道を志す第一歩として有意義な機会となりました。

(済生記者 川原彩花)

〈熊本〉みすみ病院

救急医療への貢献で 熊本県知事表彰

9月9日に行なわれた救急医療功労者熊本県知事表彰式で、当院が表彰されました。

本表彰は救急医療への長年の貢献があった個人・団体などを対象としたもので、開院当初からの当院の基本方針の一つであ



る「救急医療を実践します」のもと、宇城市・上天草市・宇土市にまたがる範囲の救急患者を受け入れてきたこと、また出前健康講座による地域住民への啓発活動や救急隊の実習受け入れや症例検討会の開催など人材育成にも力を入れていることが評価されました。

(済生記者 船橋麻紀)

〈愛媛〉今治病院 防災フェスタに130人

8月31日、イオンモール今治新都市で「防災フェスタ」と無料健康相談会を実施しました。当日は130人以上が来場。BLS講習、今治市防災危機管理課による防災教室、さくらんぼの会による子ども向け手作りコーナー、健康相談など多彩な内容を展開し、幅広い年代層の方に積極的に参加していただきました。

アンケートでは「5歳の娘が



興味を持ち、一次救命の体験がとても勉強になりました。子どもながらよく理解し、関心を深める良い経験ができました」などうれしい感想も。確かにBLSブースではご家族で参加する姿も多く見られたのが印象的でした。

今後の継続的な取り組みへの期待も感じつつ、より地域の人とながら、健康・防災の知識を広めるイベントにすることができたと思います。

〈神奈川〉横浜市東部病院 同期のつながりを育む

8月28・29日、職種混合の新入職員研修を実施しました。両日合わせて新入職員118人（看護90人、コメディカル・事務28人）と運営支援をした教育委員19人が参加しました。

看護教育室と人材開発支援室による職種混合型の新人研修で、今年で2年目。本研修の目的は、コロナ禍で職員同士の交流が減少したことを受け、チーム医療に欠かせない「同期のつながり」を育むことです。

両日とも午前は医療安全、午



後は災害対策について、グループワークと自部署でのフィールドワークを組み合わせ、実践的な安全意識を身に付けました。

災害対策の研修では、災害時に必要な物品の確認、ヘルメットのライトの点け方やエアーストレッチャーの使い方を練習。職員同士で積極的に交流しながら学んでいました。

（済生記者 荒木愛美）

〈茨城〉神栖済生会病院 感染症対策は連携が大事

2025年度感染症対策合同訓練が9月9日、鹿嶋市の小山記念病院で行なわれました。こ



の訓練は地域の新興感染症対策を目的として感染対策向上加算の算定医療機関に呼びかけ、当院と小山記念病院で交互に主催しています。今回は30の医療機関や医師会、保健所などから67人が参加。当院からは感染管理室の山口芳子看護師長など4人が参加しました。

訓練では、用意されたシナリオをもとにグループディスカッションを実施。どのグループで

も活発に議論が行なわれ、他グループの発表に納得したり、新たな視点を得たりすることができました。

関に相談し、保健所と迅速に連携することなどを再確認しました。

（済生記者 江口裕紀）

〈愛媛〉小田老健ふじの園 地域在住の中学生によるミニピアノコンサート

8月8日、当園ホールで中学3年生・尾澤花音さんによるミニピアノコンサートが開催され、入所者・デイケア利用者さん、職員など約50人が参加しました。花音さんは「私のおじいちゃんおばあちゃんが住む小田で演奏させていただきます」と自己紹介。両親・祖父母に見守られる中、演奏の合間に作曲家クイ



研究で得られた成果と 今後の展望を発表

7月28日、事務部45人が6チームに分かれ、毎年恒例の明和グループ事務部によるワーキングセミナー発表会を実施しました。

今年の演題は6題あり、「事務部の退院支援の役割〜シームレスな支援を目指して〜」「防犯対策〜日直編〜」「ペーパーレスの推進と業務改善」「マスコットキャラクター作成」



マスコットキャラクター制作

「DXを目指して」「健康診断項目のバック化について」と多岐にわたりました。

その後、投票、そして8月25日に結果発表および嵐仁志事務部長から講評があり、表彰式を開催。最優秀賞は「マスコットキャラクター作成」、優秀賞は「防犯対策〜日直編〜」に決定。最優秀賞は済生会学会、優秀賞は三重県支部主催の済生会フォーラムへの演題発表の機会を与えられました。

（介護保険部門課長

姫子松俊弘）

topics



さんに扮して各ユニットを訪問。一見普通のかき水に見えますが、実はひと工夫施されています。普通の水ではなく、トロミ水^{トロミ}を水にしており、食感はずいぶん水と変わりますが、溶けるとトロミとした水になるので普段トロミを付けて食事している人でも食べることができます。

65人ほどの入居者さんに好きな味を選んでもらいましたが、一番人気はイチゴ味でした。「久しぶりに食べれて嬉しいよ」「冷たくていいね」と大繁盛でした。

（介護サービス課 神谷 遥）

（滋賀）老健ケアポート栗東
人生の大先輩に敬意を込め
心温まる敬老会を

9月10日、敬老の日を前に、当施設入所棟の利用者さん100人が参加し、敬老会を開催しました。

認知症専門棟の式典では、傘寿2人、米寿2人、卒寿6人、そして最年長となる98歳の方に賞状を贈呈。賀寿を迎えた皆さんは感謝と敬意の気持ちを込めて手を合わせられ、厳かな雰囲気



〈富士〉幼保連携型認定 子ども園でしこ保育園 夏の立山で自然探検

8月7日、年長児・年中児46人が立山青少年自然の家での夏の自然体験プログラム「立山・トンネルたんけん隊」に参加しました。

午前中は雨の中のトンネルの森の散策。キツツキが木に嘴でつついた穴を見ついたり、葉を揉むと匂いが出るヘクソカズラを見つけた実証してみたり、ズンズンと進む子どもたちでした。午後からは沢遊びに挑戦。冷たい水が流れる沢の前に怖がる子どももいましたが、沢に入ると「気持ちいい！」と普段保育園ではできない体験に心躍らせて



ながらゴールを目指しました。イワナやヤゴを見ついたりしながら進み、少し激しい流れのところや大きな岩がある急所では「ここに足を置くといいよ!」「頑張れー!」など、励まし合う姿も。ゴールし喜び合う子どもたちの表情はとても誇らしげでした。

（済生記者 宮本亜実）

滋賀県病院

地鎮祭で工事の安全祈願

8月7日、新外来棟の建設に向けた地鎮祭を行いました。堺井滋賀県済生会支部長や三木恒治院長をはじめ、建設に関わる関係者26人が参列しました。工事現場に祭壇が設けられ、齋主による祝詞奏上や地鎮の儀など厳かな儀式が執り行なわれ、工事の安全と施設の発展を祈願。式の最後には三木院長が「新外来棟の建設は、外来診療機能の充実、予防医療、患者サポート機能の充実、急性期から介護まで切れ目のない医療を実現し、地域の皆さんに安全・安心な医療サービスを提供できるものと考えています」と述べまし



新外来棟は2027年2月の完成を予定しています。完成に向け、院内でも準備を進めていきます。

（済生記者 鶴飼健成）

〈静岡〉特養小鹿でしこ苑 トロツとしたかき氷?

冬は暖かく夏はそれほど暑くないといわれる静岡ですが、今年は8月6日に静岡市で国内歴代2位タイとなる41.8度を観測。暑い毎日乗り越えよう!というところで、8月20日に「かき氷フェスタ2025」を実施しました。

屋台を使用して、かき氷屋

和歌山病院

みんなで結ぶ栄養の日

8月4日の「栄養の日」、8月11日の「栄養週間」に合わせて、栄養科の職員4人で外来患者さんにポケットティッシュの配布を行いました。

栄養の日は8（エイ）と4（よん）と読む語呂合わせから公益社団法人日本栄養士会が制定。栄養に関する知識を深め、食生活について考えるきっかけの日として、全国各地でさまざまなイベントが実施されています。

今年のテーマは「みんなで結ぶ栄養の日」。当院でも外来モニターに栄養に関するスライド画像の掲示を行ない「塩分を摂りすぎない



気に包まれました。続いて、お祝いの催しとして職員5人が普段とは異なる衣装に身を包み、ソーラン節を披露しました。利用者さんも飾り付



ませんか?」のチラシを挟んだポケットティッシュ120個の配布を行いました。啓発ポスターと旗も栄養科職員のお手製です!

（済生記者 松元靖寿）

「化粧のチカラ」で がん患者さんを元気に

〈大阪〉中津病院

9月11日、当院がん患者サロン「つなぐ」で資生堂ジャパン株式会社による「がん患者さんのための外見ケアセミナー」を開催しました。

当日はがん患者やその家族、がんピア・サポーターなど8人が参加。がん治療の副作用で肌色が悪くなったり、眉が薄くなったりしたなどの悩みに対し、資生堂ジャパンのソーシャルエリアパートナー（社会活動専門の美容職）が化粧道具の使い方を実践しながら、スキンケアやメイクのポイントを丁寧に説明してくれました。

特に印象的だったのは、「大好きな赤い口紅をつけたら心まで明るくなった」「これなら元氣に見えるね」と皆さんがどんどん元氣に笑顔になっていったことです。化粧のチカラで外見だけでなく、内面まで明るくなった貴重な体験



でした。

（がん看護専門看護師 渡部昌美）

地域と歩む認知症支援

〈栃木〉宇都宮病院

当院の牧宏一MSWが、宇都宮市地域包括支援センター主催の「家族介護教室」で講師を務めました。本教室は今泉陽北地区の住民を対象に、6月24・27日、7月18日の3回実施され、計18人が参加しました。

講義は「病院との上手な付き合い方」「認知症編」をテーマに、認知症患者の家族への支援

や医療機関との連携方法について解説しました。参加者からは「認知症関連サービスへの理解が深まった」「今後の介護や将来に役立つ学びが得られた」といった声が寄せられ、分かりやすい説明が高く評価されました。

（地域連携課 川田綾香）

〈大阪〉泉尾医療福祉センター

長寿の祝い合同式典

9月13日、泉尾医療福祉センター内の五つの福祉施設で長寿の祝い合同式典を開催。多数の来賓のご臨席のもと、大変厳かで晴れ晴れとした素敵な式典となりました。

今年度は90歳以上が94人、米寿が19人、喜寿が8人で、各代表者は恥ずかしさと誇らしさの入り混じった笑顔で記念品を受け取っていました。つつじ荘大正琴サークル「うたた音」の演奏はお祝いの席に華を添え、懐かしい曲を口ずさむ声に会場中が温かくなりました。

第二大正園の入所者代表からは謝辞として、他人所者や職員との日々の交流の素晴らしさや喜び、そして感謝のお言葉をいただきました。



子どもたちも、慣れてくるとスムーズに扱えるようになり、とても頼もしく感じました。イベント終了後は「未来の医師認定証」を授与し、将来医療の道に進んでくれるよう期待を託しました。

イベントを企画した丸山常彦消化器センター長は「消化器外科医が減少する中、地域の子どもたちに医療を身近に感じてもらう貴重な機会となりました。将来医療を志すきっかけになればうれしいです」と語りました。

（済生記者 今野正俊）

〈大阪〉泉尾病院

フォーラムで地域連携

8月30日、ホテル日航大阪で「泉尾フォーラム」を開催し、



院内外から109人が集まりました。

当日は、当院から循環器内科・中川英一郎部長が「Common Diseaseとしての心房細動（カテテルアブレーション）の考え方」、心臓血管外科・湯上晋太郎部長が「高齢者の心臓手術」について講演。また、特別講演として関西医科大学内科学第二講座の宮坂陽子教授が「心房細動の心血管リスクを考える」をテーマに講演し、参加者の皆さんは、傾きながら熱心に聞き入っていました。

最後には各診療科の医師による診療科紹介も行ない、充実した時間となりました。今後も地域で連携し、大正区の健康増進に努めてまいります。

（済生記者 高木明日美）

宮崎県済生会

職場見学・体験で ワクワク楽しい学童に

8月13・15日のお盆期間中、当支部初の取り組みとして、職員向けの学童保育を日向病院内に開設しました。

子どもの預け先がない職員からの相談がきっかけで、仕事を休まず安心して子どもを預けられる環境を整備したいという思



利用者の皆さんが心地よく元気に毎日楽しく過ごせるよう、これからも心を込めてお手伝いしますと改めて心に誓う職員一同でした。

（大阪・軽費老人ホーム ケアハウスつつじ荘 生活相談員 安達麻由子）

京都済生会病院

最期まで口からおいしく 食えるために

7月29日、当院でしこホールで「口と栄養の正しい関係」をテーマに、栄養の日のイベントを開催しました。

当日は、乙訓歯科医師会の大



橋瑞己医師や当院管理栄養士（筆者）の講演、乙訓歯科衛生士の松浦幸代さんによる嚥下体操など、嚥下障害や誤嚥予防を学ぶ機会を提供。

また、当院と暮らしランプが共同で進める「MO+GOODプロジェクト」で開発したユニバーサルデザインフードのカレーやデザートの実食も実施。暮らしランプの小林明弘さんが「誰もがおいしく食べられる」取り組みを紹介しました。

約50人が参加し、「勉強になった」「分かりやすかった」との声も。医科歯科連携の推進が求められる中、地域の歯科関係者と連携し、栄養啓発や健康づくりに努めます。

（栄養科 係長 塩濱奈保子）



〈大阪〉軽費老人ホーム

ケアハウスつつじ荘

入居者さんの安心のため

今年1月に南海トラフ地震の30年以内の発生確率が80%に引き上げられました。当園では未曾有の災害が起こったときに入居者の皆さんの安全確認と、できる限り安心して過ごしていただけるような対策について、職員一同準備と訓練を重ね、日々取り組んでいます。

その一環として、KZ総合防災企画の黒田和伸代表の指導のもと、災害時の動きを実際に行なう訓練を8月26日に実施し、職員と入居者さん合わせて54人



が参加しました。並行して大阪市老人福祉連盟が主体となり、市内の他ケアハウス職員や大正区職員の訓練見学会を開催。終了後に意見交換しながら、各々の施設での対策等へと発展させることができました。

（生活相談員 安達麻由子）

〈山形〉はやぶさ保育園

滑り台が大変身！

夏の間、子どもたちの大好きな大きな滑り台は熱くなつてしまい遊ぶことができません。そ



こで6月18日、4歳児23人で話し合うと「ウォータースライダーを作りたい！」との意見が！早速、子どもたちと木材やブ

のもと、「自分は何を大切にしたいか」を考えるきっかけとして「もしバナゲーム」というカードゲームを取り入れました。

カードには「ユーモアを持ち続ける」「人生の最後を一人で過さない」などのメッセージが書かれ、参加者は心に響いたカードを3枚選び、その理由を発表。それぞれの経験や思いが語られる中で、共感の涙が流れたり、自然と笑顔がこぼれたり、とても温かい時間となりました。

参加者からは「自分の思いを伝えることの大切さ」が伝わったと、いった声が寄せられました。（副管理者 小杉江利子）



〈新潟〉三条訪問看護

ステーション

カードゲームで人生会議 終末期を考えるきっかけに

当ステーションでは、三条市から委託され家族介護支援事業を毎年実施しています。本年度は7月19日、介護者の集いとして「終末期を考える人生会議」をテーマに開催し、5人が参加しました。

今回は「余命半年」の設定



9月1・2日、透析室で地震発生を想定した防火防災訓練を実施し、両日合わせて患者さん88人・医療スタッフ32人が参加しました。

命を守るために透析室で防火防災訓練

（何が分りにくい）か」を想定しつつ実用的な検索ガイドを目指しました。白衣のポケットに入れて持ち歩くことを想定し、A4両面サイズで六つ折りにしました。

その作成過程をまとめ、8月23・24日に札幌で開催された第40回医学情報サービス研究大会で口頭発表。発表会場で上がった意見を反映させ、完成した作成物は済生会各施設に配布予定です。また、PubMed版も今後作成予定です。

（東京・中央病院
医療情報センター
図書室司書 古谷和俊）

福井県済生会病院

訓練では、患者さんは自己防衛として「布団などで頭部や身体を保護する」「シャント肢と反対の手でベッド柵をつかむ」「回路をクリップで止める（模擬訓練）」などの方法を確認。医療スタッフは状況を把握し連携を取りながら、迅速かつ的確な対応を実践しました。

2024年元日に起こった能登半島地震は、福井県にも震度5の揺れをもたらしました。この訓練は、未曾有の災害を経験したからこそ生まれた、強い使命感に基づくものです。「あの時のように、いや、あの時以上に備えよう」——その思いを胸に、今後も定期的な訓練を実施し、より安全で安心できる病



7月6日、あそび体験イベント「あそびログ」がイオン釧路店で開催され、重症心身障がい児（者）施設である当施設はスイッチで動かせるおもちゃを使ったあそびを紹介するブースを出展しました。

障がいの有無に関係なくあそびを楽しめるように

院づくりを目指します。

（済生記者 橋本来林）



るプロジェクトです。

当日は、市販の電池で動くおもちゃを改造してスイッチにつなげ、さまざまな障がいを持つ人もあそびを楽しめる工夫を展示。約50人の子どもたちが興味を持って来てくれ、スイッチで恐竜のおもちゃを動かしてお絵描きをするなど、あそびを楽しんでいました。

障がいがあっても面白いあそびがたくさんできることを今後も伝えていきたいです。次回の開催地も募集しています。

（機能訓練課 作業療法士 三谷紘世）



〈熊本〉済生会ウイズ 未来を考えるきっかけに

夏休み期間の特別支援学校の生徒を対象に、8月19・21・22日の3日間、就労体験会を実施しました。

3日間で合計11人が参加。はじめに当施設の元一輝副管理者が熊本福祉センターと当施設の事業説明を行い、食品事業の現場見学と給食の梱包作業体験、クリーニング事業の現場見学とスクラブの畳み・ズボンのハンガー掛け体験、給食事業の厨房見学を行いました。

その後のクイズ大会では、見学をした事業にまつわるクイズで大いに盛り上がりました。参加した生徒からは「具体的に将来を考えることができた」との声が聞かれました。

今後も就労体験会を実施し、支援学校との交流と新規施設利用につなげる機会をつくっていききたいと思います。

（支援員 荒木勇登）

〈愛媛〉松山老健にぎたつ苑 実り多い意見交換の場

7月12日、〈山口〉下関グラ



ンドホテルで全国済生会在宅サ―ビス協議会が開催されました（P20、21参照）。

今回のメインテーマは「地域に根差した総合的な在宅ケアサ―ビスの推進を目指して」。当苑からは山本昌也苑長をはじめ、訪問看護ステーション、居宅介護支援事業所、訪問介護事業所、通所介護・通所リハビリの4部会に各1人参加しました。

午前中に幹事会、午後から総会・全体会議があり、その後は事業所ごとに五つの部会が開催されました。

空の対象者（ベルソナ）として設定し、「その人にどのような情報が必要か」「何を知らな



済生会図書室連絡会 医中誌Web検索ガイド作成過程を研究大会で発表

済生会図書室連絡会（済生会研究組織活動補助対象の一研究グループ）では6病院の有志メンバーで昨年8月から医中誌Web検索ガイドの作成を進めてきました。配布対象者を架

シンポジウムでは山本苑長が座長を務め、実り多い議論が交わされました。

（ディサービスセンター）ごしま 係長 西原勇平

済生会図書室連絡会

神奈川県病院

二瓶腎臓外科部長が 学会大会長を務める

8月2・3日、横浜シンポジウムで「第34回日本腎不全外科学術集会」が開催され、当院の二瓶大腎臓外科部長が大会長を務めました。

テーマは「生涯を支える腎不全外科」。全国から腎不全診療に携わる各分野の医師や看護師、臨床工学士など約300人が集まり、腎不全患者の外科的治療に関して討論が行なわれました。

慢性腎臓病が進行して末期腎不全になった場合、腎代替療法を選択する際に、手術は不可欠で、その成否が患者さんの生命予後や生活の質に大きく影響します。超高齢化社会を迎え、腎不全診療は複雑化しており、専門医だけでなく多種によるチーム医



大会長の二瓶大腎臓外科部長

療が重要です。当研究会を通じて最新の治療法や医療情報が共有され、一人でも多くの腎不全患者に貢献できればと思います。

（済生記者 小山友輝）

「福岡」デイサービスセンター

天拝

生け花で心豊かに

利用者さん48人に季節を感じていただくよう、8月19日に当施設で生け花レクリエーションを開催しました。

今回の活動では、色とりどりの花々を使って、皆さん思い思いの作品作りに取り組みました。テーブルの上に新聞紙を敷き、ハサミやティッシュなどを準備。



利用者の皆さんは職員と一緒に花を選び、配置を考えながら、笑顔と会話があふれる時間となりました。

りました。

参加者からは「昔、家でよく花を飾っていたのを思い出した」「きれいな花を見ると心が和むね」といった声が聞かれ、懐かしさや喜びを感じてもらえたようです。

これからも利用者の皆さんが心豊かに過ごせるよう、季節感を大切にしたレクリエーションを企画していきます。

（済生記者 岸川涼二）

〈長野〉佐久市特養

シルバードランドみつゐ

ノスタルジックな音色

8月21日、佐久アコースティック愛好会の6人による心温まる

児から中学1年生の計6人と保護者が参加しました。このイベントは介護体験を通じて子どもたちに福祉や介護の大切さを知ってもらい、施設の様子を紹介する絶好の機会となりました。

当日はまず施設の説明から始まり、車椅子や特殊浴槽、移乗リフト、送迎車両の昇降体験などを行いました。特に移乗リフトの体験は、子どもたちから「飛んでいるみたい！ 楽しい！」との声が上がっていました。また、お父さんやお母さんの職場を見学してもらえ、良い機会となりました。

今回のイベントを通じて、子どもたちが介護の大切さを知り、福祉に興味をもってもらえたらうれしいです。

（済生記者 布施優子）

〈東京〉中央病院

当院公式ファンアプリ誕生

自費診療領域の情報発信のために「カカリンク」アプリを用いた「さいちゅうファンアプリ」を9月1日、導入しました。総合健診センター（人間ドックなど）、産婦人科領域（マタニティクラス、プレコンセプション



ケア）、産後ケア（ショート・デイ）、ワクチン、頭のかたち、健康講座などの情報について、アプリを用いて配信し、集患につなげます。アプリ導入の最大の目的は自由診療領域における個別サービスの提供とその告知、個別サービスの提供による自費診療領域の拡充です。今後はボランティア募集や採用情報などの内容も掲載予定です。

今後このアプリを通じて当院の「ファン」を増やしていきたいと考えています。「カカリンク」アプリをインストールし、病院コード「16578」を入力してぜひご利用ください。

（事務次長代理 町田洋治）



職員の子もたち対象に 福祉現場の体験見学会

8月23日、ボランティア委員会主催で職員家族を対象に「職場体験見学会」を開催し、年長

（新潟）特養長和園

（済生記者 山浦裕子）

ほしいとオファーして実現。アコースティックの合奏では、「とおりやんせ」ほか3曲、独唱では「津軽のふるさと」「あざみの歌」の2曲が披露され、後半は「高原列車は行く」「富士山」など、懐かしい曲を利用者さんと一緒に大きな声で楽しむ時間となりました。特に「富士山」の曲では、身振り手振りをつけながら元気いっぱいに歌う姿が印象的でした。アコースティックの優しい音色と、利用者の皆さんの歌声が一つになり、会場は笑顔で溢れました。

〈北海道〉小樽老健はまなす いっぱいといれたぞ！

小学生が春に植えたジャガイモの収穫を、9月5日に塩谷小学校全校児童32人（当日4人欠席）で行ないました。
学年ごとに整列し、スコップや手で掘り起こすと小さきまざまなジャガイモが顔を出してききました。



高学年の児童には、ひと通り収穫を終えた段階で鍬や作業用のスコップで深くまで掘り起こし、イモが残っていないか確認してもらいました。鍬や作業用のスコップを使った児童は「こんなの初めて使った」「思ったより難しいし力がいる」など

と感想を口にしていました。最後に全員で土を慣らし、草やイモの茎などを畑から除去。収穫したイモは、児童の皆さんに持って帰ってもらいました。

何を植えるかは未定ですが、来年度も塩谷小学校と作物を育てていく予定です。

（済生記者 伝法俊和）

〈新潟〉特養長和園 まんなかサマールランチで 夏の思い出作り

8月22日にAOZORA介護予防教室で「まんなかサマールランチ」が開催され、大人20人、子ども9人、ボランティアさん2人が参加しました。



通常は大人を対象に月1回開催しているこのイベントですが、夏休み中は子どもたちも対象に。ランチメニューは栄養たっぷりの夏野菜カレー。今回はまんなかサマールランチの開催に合わせて大人向けに健康教室、子ども向けに機能訓練指導員によるストレッチ体操も行ないました。

参加者からは「美味しかった！」「大勢で食べる食事も楽しいね！」「また参加したい！」「体操はバランスをとるのが難しいけど楽しかった！」という声が聞かれ、大変好評でした。

（済生記者 布施優子）

新潟病院 病院公式インスタグラム 始めました！

7月1日に当院公式インスタグラムを開設しました。働く職員、病院内の日常など、院内のありのままを発信しています。

採用活動の強化を図りたい看護部が、他病院のSNS活用



を参考に「自分たちにも発信できる取り組みがある！」と気づいたことがきっかけとなり開設することに。インスタグラムは若い世代を中心に情報収集の主要手段となっているため、特に若者層への浸透を期待しています。

職員の協力を得ながら、顔



芝の上でヤカーリング 〈埼玉〉鴻巣病院

が見える。発信を心がけ、当院の魅力や雰囲気伝えていきたいです。ぜひ、いいね！コメント！フォロー！よろしくお願いします。

（総務課 吉川未織）

5月29日、当院グラウンドで「体験型ゲームに参加したらもらえるスタンプラリー」を開催しました。作業療法科を中心に、病棟看護士の協力のもと、閉鎖病棟の患者さん

たちが外の環境を楽しみ、他の病棟の皆さんと交流するためのこの企画。103人が参加し大盛況でした。

今年は新しく「ヤカーリング」の種目を追加し、パターゴルフ、ゴルフキック、的当てなど、参加者は6種類のゲームに挑戦。多くのゲームに参加するとスタンプラリーのポイントがもらえるシステ



福井県済生会病院 大切な誰かへの気持ちを 言葉にして癒やしを

9月の「がん征圧月間」に合わせ、9月8〜12日に「心のつながり」をテーマとした啓発イベントを開催しました。

ムで、お菓子や飲み物の景品が増えていくのも大変喜んでもらえました。

（作業療法士 高橋健太）



医療従事者が折り紙や短冊、メッセージカードに「誰かに届けたい気持ち」を綴ってもらい、風鈴やお守りの形で展示。持ち帰る子どもたちの姿も見られました。

メッセージの届け先は自由で、「ずっと見守っていてね」「みんなが健康で楽しく過ごせますように」など心に響く言葉が並びました。認定がん専門相談員の川瀬看護士は「文字にすることで、自分の気持ちに気づいたり、相手に届けやすくなったたりします」と語っています。

同時開催の「がん教育パネル展示」ではクイズ形式で正しい知識を楽しく学べる工夫を凝らしました。9月24日には専門医による無料相談会も開催予定です。

（済生記者 橋本来林）

topics



「た」という感想をいただきました。機能評価の取得はゴールではなく、継続して日々改善を行ないより良い健診センターをつくっていくことを認識し、改めてモデルになる健診センターでありたいと強く思った一日でした。

(健診センター)
係長 瀬元健太郎



気づきを生かして 健診事業を推進

8月21日、京都済生会病院の健診センター見学会に筆者が参加しました。同院は2022年に新築移転し、外観は土地柄にあった高級旅館のような建物で、城をイメージしているとのことでした。

はじめに宮部剛実事務長と長濱正美副看護部長から挨拶があり、宮部事務長からは「9施設14人の交流は大変貴重な時間になると思います。それぞれが意見を交わし、各施設へプラスとなるものを持ち帰ってください」と激励をいただきました。続いて、瀬元健太郎健診センター係長から「健診機能評価」について説明があり、施設見学を行ないました。

〈奈良〉キッズランドひまわり 基平姿で大はしゃぎ

8月29日、中和病院の院内保育所「キッズランドひまわり」で夏祭りを開催し、9人の子どもたちが参加しました。

子どもたちは基平を着て、保護者と一緒に魚すくい、スイカ割り、ワニニパニックなどに挑戦。保育士手作りのワニニパニックは何度もチャレンジしたり、子ども同士でワニ役を交代したりと大人気でした。

かき氷屋さんからは「いらっしやいませー!」と大きな



健診センター内は機能性が高く、プライバシーが配慮された設計でした。実際に現場を見学したことで、細かな気づきがあり、当院の健診事業に生かしていきたいと考えています。

(検診センター 横井小百合)

楽しそうにはしゃぐ子どもたちの姿に、保護者の皆さんは「参加できてよかった」と話し、心温まる夏の思い出となりました。

夏祭りの様子は、中和病院の公式Instagramにも投稿していますので、ぜひご覧ください。

(奈良・中和病院)
済生記者 米井 悠



骨伝導インカム導入で 職員間の連携アップ

〈大阪〉泉尾特養第二大正園

当園では6月から生産性向上の取り組みの一環として、骨伝導イヤホンを使用したAIインカムを導入しています。8月28日には導入事例施設として取材を受けました。

骨伝導イヤホンは周囲の音が聞こえるなどの利点があります。また、有線では利用者さんに当たって落ちて故障したこと。導入後は、フロア内はもちろん、フロアと浴室間の連携にも活用しており、職員同士のコミュニケーションがよりスムーズに。年配の職員も問題なく使用でき、幅広い世代で導入効果を実感しています。

取材動画はYouTubeで10月1日に公開。職員の働きやすさを支える新しい取り組みとして紹介されています。

これからの最新技術を取り入れながら、より質の高い介護を目指していきます。

(済生記者 黒木洋輔)



〈埼玉〉川口総合病院 未来への大きな一歩!

7月29日と8月6日、当院で「ふれあい看護体験」を開催。各日7人、看護師を目指す高校生が夏休みを利用して参加しました。

当日は1人ずつ病棟に入り、看護師と一緒に午前中いっぱい活動。患者さんの清拭や検温、搬送、シーツ交換など、実際の看護業務を体験。患者さんからは「高校生の頑張っている姿に涙が出ちゃう」「頑張って、素敵な看護師さんになってね」との声援がありました。

参加理由を聞くと、「母が看護師をしていて、小さい頃から

健診センター見学会 他施設と比較し発見も

京都済生会病院

8月21日、当院健診センター見学会を開催しました。

「京都済生会病院の健診センターを見たい」「日本人間ドック・予防医療学会健診施設機能評価(以下、機能評価) 取得や更新審査に向けて参考にしたい」と〈東京〉中央病院、静岡済生会総合病院、〈千葉〉習志野病院、〈新潟〉三条病院、〈奈良〉中和病院、〈愛媛〉西条病院、〈愛媛〉松山病院、〈鳥取〉境港総合病院の8施設の健診事務職が来訪。参加者からは「業務の進め方から、機能評価基準に則った運営がなされている印象を受けまし

大変さは感じていました。でもとってもらったかと思っていました。看護師の道へ進むと伝えたら、母はとても嬉しそうにしてくれました」という返答する学生も。

患者さんの励ましと、家族の思いに背中を押され、未来のナースたちは大きな一歩を踏み出しました。

(済生記者 原 衣里奈)

〈山口〉下関総合病院
在宅レスパイト事業に取材

7月29日、当院の在宅ケア科が行なっている医療的在宅ケア児のレスパイト事業に関して、ソーシャルインクルージョンを考えるWebメディア「シンク！」の取材を受けました。

この事業は、人工呼吸器や経



シンク！
記事はこちら



管栄養などが必要な医療的ケア児を在宅でみている家族が、一時的にケアができないようなときに、見守りやケアを行なう訪問看護を助成するものです。

取材には石川雄一小児科長、首藤悦子看護部長、橋本道子看護師長が参加。橋本看護師長は「医療的在宅ケア児は増えつつあるが、小児をみる事業所は少なく増やす必要がある。ケアをする家族が元気でないと小児もつらい。息抜きが必要な際は遠慮なく利用を」と話し、環境整備の必要性、家族が背負っているものを少しでも軽くしたいという思いが伝わってきました。

（済生記者 安岡佳成）

〈鳥取〉境港総合病院
2人の医師へ感謝状

8月5日、当院の2人の医師それぞれへの感謝状伝達式が同日、当院会議室で行なわれました。

近藤慎二脳神経外科部長は永年の鳥取労働局地方労災医員としての功績を称えられ、厚生労働大臣感謝状を受賞。鳥取労働局労働基準部労災補償課・寺内大武課長から贈呈されました。



山崎医師（左）

近藤脳神経外科部長（左）

近藤医師は平成25年4月から令和7年3月まで鳥取労働局地方労災医員を12年間務めました。

一方、山崎純一医師は広島検査所出張所および米子空港出張所における厚生労働省医員を12年にわたり務めました。検査業務への貢献を称えられ、川本敦司・広島検査所出張所長から感謝状を受け取りました。

（済生記者 亀尾美子）



まることができない入居者さんもユニット内で公演を楽しむことができました。

テレビで見聞きする落語とは違い、生の落語は声の通りが良く臨場感たっぷり。ユニット内でも内容を聞き取るうとする入居者さんの様子や、皆さんで笑い合う場面も見られました。

観覧者からさまざまな感想が寄せられ、「笑いたかったけど、大声で笑うのは遠慮しちゃったわ」「またこのような機会をお願いします」など大変好評でした。（生活支援課 長澤さち子）

〈石川〉こども園アイリス

緑日の屋台楽しかった！

当園3階併設の「さいせいこい子育て支援センター」は、0〜2歳（未就園児）の子育て真っ最中のママたちが集うサロンの存在です。

8月29日には夏祭りを開催。総勢20組の親子が「おめん屋さん」「ヨーヨーつり」など緑日をイメージした屋台を巡り、緑日気分を味わいました。

続いて「わっしょい！ わっしょい！」のかけ声とともに、こども園の5歳児が自作の神輿

を担いで登場し、「ぼんちやらりん音頭」を披露してくれました。センターの親子も5歳児の輪の中に入り、一緒に盆踊りを踊って夏祭りのクライマックスを楽しみました。

ママたちからは「夏にお祭りに行けなかったのですごく楽しめました。どの屋台も気に入って大興奮でした」などの感想も参加した皆さんの素敵な夏の1ページになったようです。

（保育教諭 荒清昭美）

〈滋賀〉守山市民病院
インターンシップ初実施

8月2日に看護学生を対象とした半日インターンシップを実施し、学生9人が参加しました。病院や看護部の概要を説明し



〈神奈川〉特養わかぐさ
桂歌丸一門による落語

7月17日、「桂歌丸一門による老人福祉施設の訪問公演」が行なわれ、桂歌若さんほかアマチュア落語家による落語が披露されました。

当日は入居者さん50人とその



ご家族5人が1階の多目的室に集合。今回は初の試みで、各ユニットのテレビにZoomをつなげるにより、会場に集

た後、急性期・回復期・慢性期の3種類の病棟を見学してもらい、各病棟の特色や現場の雰囲気を感じてもらいました。その後は現場で働く看護師のリアルな声に触れる機会として、3〜5年目の先輩看護師4人と看護管理者3人が加わって座談会を行ないました。

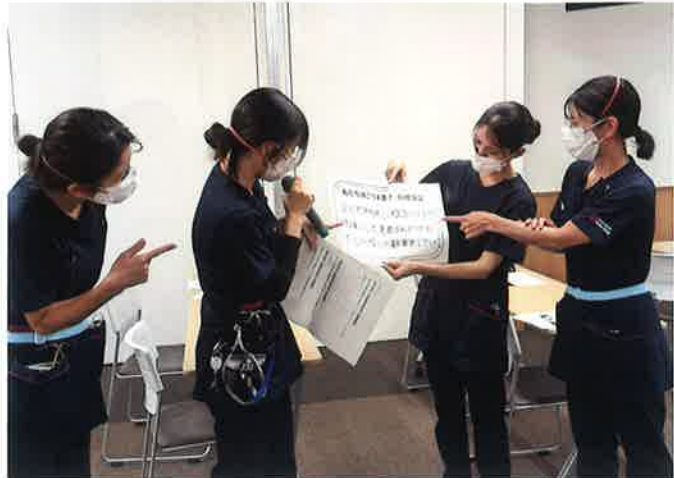
座談会では当院を志望した理由や看護師としてのやりがい、実習中の悩み、国家試験の勉強方法など、幅広い話題で盛り上がり、会話の尽きることがありませんでした。

インターンシップ実施は今回が初めてでしたが、今後も当院や看護師の魅力を発信する機会として続けていきたいと思っています。（済生記者 中嶋元香）

三重 明和病院

新人看護師がKYTで
事故防止の意識高める

8月21日、新人看護職研修として今年度採用された新人看護師8人を対象に12誘導心電図研修とKYT（危険予知トレーニング）を実施しました。心電図研修では臨床検査技師のサポートのもと、装着と操作を体験し、①電極を貼る前②貼り終えた後③検査直前の三つの確認ポイントを学びました。



KYTのグループ討議では意見交換が活発に行なわれ、時間が足りないほど。発表する姿も回を重ねるごとに頼もしくなり、医療チームで危険を予知し、事故を未然に防ぐという意識が向上しました。

の声があり、夜勤が始まった今、仲間と支え合いながら着実に成長しています。
（医療安全管理責任者 黒宮幸美）

〈神奈川〉横浜市南部病院

寝たきりを予防しよう！
圧迫骨折の出張講座

8月18日に、横浜市日野南地域ケアプラザで「予防しよう！圧迫骨折」と題して当院の平良優次整形外科副部長が出張講座を開催しました。当日は地域住民33人が参加。当初の想定を大幅に超える盛況ぶりでした。



「ちょっととした尻もちや転倒が引き金となる圧迫骨折の予防には、骨がもろくなる骨粗鬆症の予防・治療が重要」と平良医師。参加者からの「予防のためには具体的にどういったことが必要か」という質問に対して、筋力トレーニングの方法を実践する場面もありました。

（済生記者 南川茉悠）

〈鹿児島〉川内病院

県内初共催の研修会

8月17日、当院管理棟4階なでしこホールで「がん等の診療に携わる医師等に対する緩和ケア研修会」を開催し16人が受講しました。当院では2008年から毎年開催し、今年で18回目。開催指針の変更により、共催が可能になり、今回は近隣の出水郡医師会広域医療センターと初めて共催しました。

県内初の共催ということで、手探りで準備を進め、何とか当日を迎えることができました。同センターと今後も研修会だけでなく、がん診療の連携協力体制整備の充実を図っていきます。近年は医師の受講修了者が増えたことで、コメディカルの参加も増加。コメディカルの参加はがん患者と家族のケアを支援する上で重要視されており、今後も多職種での研修会を開催していきたいです。

（医療連携室 課長補佐 野間口男志）



〈山形〉特養やまのべ荘

アイスを食べにお出かけ

当荘デイサービスでは7月28日～8月6日、延べ68人の利用者が参加し、道の駅寒河江チェリーランドさがえの「さくらんぼ会館」と、農場直送の産み立て卵とスイーツの店「たまごの国いではこっこ」に出かけました。

外出を通じて利用者の社会交流を図ろうと、毎年恒例となっているこの外出行事。今年は猛暑を乗り越えるために、冷たいアイスを食べに行くことにしました。

参加者からは「一人ではこ



〈大阪〉野江特養城東園
敬老のお祝いで民踊披露
着物も新調し華やかに

9月13日、敬老のお祝い行事の一環で、民踊ボランティア「三巳美会（さんびかい）」に民踊を披露してもらいました。

この民踊のイベントは、近隣のフラワーアレンジメント教室「花のビーンズ」の西尾真理さんをはじめとするボランティアの協力により、年2回の恒例行事となっています。

踊りが始まると、参加した入居者さん50人は思わず手や身体が動いてしまうほど楽しさ、丁寧な所作で舞い踊る姿に拍手が起こり、会場は笑顔であふれました。普段なかなか外出が難しい中で、伝統文化に触れる機会はとても貴重です。次回の民踊は来年3月を予



定。12月のクリスマスの際にはフラワーアレンジメントのボランティアとして来てもらっており、今から趣向を凝らした作品作りに思いを馳せる入居者さんもありました。

（特養係長 中西茂人）



済生丸内で船員さんと一緒に外を確認

では、看護師や専門スタッフが生活習慣や病気の予防に関するアドバイスをしない、日常の健康づくりに役立てていただきます。

地域医療を守るために インターンシップを開催

〈大阪〉富田林病院

住の医療系学生、将来同地区で働くことを目指す医療系学生を対象に企画。それぞれ養成校に通う、看護師12人、臨床工学技士1人、放射線技師2人、臨床検査技師4人の計19人が参加しました。

8月8日に「将来南河内地区で働くことを目指すあなたへ」と題して、インターンシップを開催しました。南河内地区の人口減少と医療職の人材不足を解消すべく、同地区在

また、国内唯一の巡回診療船「済生丸」の船内見学も実施し、参加者は医療設備の見学や操縦席体験に興味津々。今回のフェスタを通じ、地域の皆さんが健康を身近に考えるきっかけになれば幸いです。

（済生記者 長尾美甫）

涼運ぶ風鈴のトンネル

〈福井〉特養聖和園

8月17日、認知症対応型通所介護わらびようデイサービスセンターの利用者さん5人と職員2人が、勝山市北谷町谷の伊良神社にドライブに出かけました。境内には1000個の風鈴が飾られ、山あいを吹く風に揺られて「チリン、チリン」と涼しげな音を響かせていました。今年で3年目となる「谷もりあげ隊」（地域出身者のグループ）の企画で、昨年より200個増やした風鈴のほか、風車や和傘が彩りを添え、写真撮影スポットとしても充実しています。利用者さんは風鈴の並ぶ境内を歩きながら音色や彩

りに耳と目を向け、自然と表情が和らいでいました。短い時間ではありましたが、風鈴の音に包まれたひとときは、心に涼を運ぶ夏の思い出となりました。

（済生記者 野尻 宗）

〈山口〉下関総合病院

医療を守るために 若い力を

将来医師を目指す中高生に向けた医療体験「ブラック・ジャックセミナー」を8月7日に開催しました。約70人の応募の中から抽選で選ばれた県内の中学生6人、高校生24人が参加。



3年前から夏休みに実施する当院の恒例行事です。午前中は手術室、内視鏡室、超音波検査室などを見学。手術室では手洗い実習を行ない、手術支援ロボットでの手術などを見学しました。午後は外科手術体験として、腹腔鏡や電気メスの操作、ブタの心臓を用いた弁置換手術を経験しました。閉会式では森健治院長が「身近に医療を感じ、命について考えてほしい。そして、皆で医療を守ってほしい」と挨拶。参加した中高生は「医師の仕事を具体的にイメージできた」「命を任せられる医師になれるだけの責任感を身に付けたい」と話していました。

（済生記者 安岡佳成）

健康を考えるきっかけに

8月23日、イオンモール高松で「イオン×済生会 健康応援フェスタ」を開催しました。当日は延べ250人が来場。当院の歯科衛生士が指導するマイ歯ブラシ作りや、AED・心肺蘇生法の体験は子どもたちに好評でした。健康相談コーナー



してもらいました。参加者からは「病室で患者さんと話すなど良い経験ができた」「救急外来で体験した心電図やストレッチャーの操作が印象に残った」「手術室で手袋をつけるのが難しかった。ガウンは2人で協力して着るということも知れて、とても良い経験になった」との感想が寄せられました。

（済生記者 島崎寛将）

滋賀県病院

地域の開業医と 「顔の見える」連携を

8月2日、ホテルポストンプラザ草津で、地域の開業医と当院の医師が集まる「なでしこ地



域医療連絡会」を開催しました。当日は湖南・甲賀医療圏の医師112人（当院医師含む）が参加。互いに顔を合わせて、より良い地域医療の実現に向けて意見を交わしました。最初に当院の各診療科の取り組みについて、小児科の國津智彬医師、脳神経外科の横矢重臣医師、脳神経内科の藤井明弘医師、循環器内科の西地稔幸医師、消化器内科の石田紹敬医師の5人がプレゼンを実施。その後は自由に意見交換する場が設けられ、参加者からは「直接話すことで病院の取り組みが分かり患者さんを紹介しやすくなった」「新しい治療の情報を得られた」といった声が寄せられました。

（済生記者 鶴飼健成）



topics

全国済生会肝臓共同研究グループ

共同研究の成果が見えるように

今年度第2回目の全国済生会肝臓共同研究グループ（SLSG）幹事会が、8月23日に新大阪のホテルでハイブリッド形式により開催されました。当日は対面4人・オンライン8人の計12人が参加。主に現在進行中の研究内容の進捗状況に関する報告と質疑が行なわれ、活発な意見が交わされました。



うれしいことに、最近では長期にわたる研究について学会や誌上で報告されるようになり、共同研究の成果が目に見えるようになってきました。SLSGの活動は済生会ホームページにも掲載されています。今後も全国に展開する病院グループの強みを生かし、共同研究を進めていきます。絶えずメンバーを募っていますので、ご興味がある

方は専門にかかわらずご参加ください。
QRコード
SLSGの取り組みはこちら

（岡山済生会総合病院）

肝臓病センター 主任医長
川上万里

滋賀県病院

ロボット手術のいま

8月23日、栗東芸術文化会館さくらホールで市民公開講座「医療の最前線」ロボット手術のいま」を開催し、87人が来場しました。



講座では泌尿器科、外科、産科・婦人科の3領域に分け、当院の専門医がロボット手術の歴史や現状、最新の取り組みについて分かりやすく解説。対象となる病気や部位、従来手術との違いにも触れ、患者さんにとってのメリットが具体的に示されました。解説では実際の手術映像やイメージ図も使われ、より視覚的にロボット手術を理解できる貴重な機会となりました。

また、会場ロビーに「かかりつけ医検索ブース」を設置し、地域医療機関の情報提供も。この講座を通して地域の皆さんにロボット手術の魅力と可能性を知っていただき、健康と安心につながる一助となれば幸いです。
（済生記者 鵜飼健成）



〈三重〉明和病院 何事も経験が大事

日々、経営マネジメントスタッフ（事務総合職）は組織運営の基盤を支えています。活躍するフィールドは多岐に渡ります。明和グループにとって医療、福祉、介護のサービスを提供するために必要不可欠である、送迎者の運転業務も大切な業務の



一つです。
8月18・19日、事務部の6人が運転業務から車椅子介助、リフト操作などを学びました。患者さん・利用者さんへの声かけを忘れずに、安全安心な運転業務



務を基本に、一つひとつの作業の奥深さを知りました。
今年入職した森井敦紀総務課員が介助される側の立場になり、車椅子に乗ってリフトでの昇降を体験しましたが、「怖かったです」と声がけがないことからくる不安、恐怖を実感しました。これからの利用者さんとのコミュニケーションを大切に安心安全な送迎業務を心がけます。
（総務課長 山田範子）

〈北海道〉なでしこキッズクラブ

自ら植えて取って食べる園児が食の大切さ味わう

小樽病院の院内保育所なでしこキッズクラブの子どもたちが、当院の「済生会農園そらし」で収穫を体験しました。

そらしはクラウドファンディングの支援資金をもとに運営。収穫品はぶりもシヨップや当院の特設販売所などで販売します。園児たちは昨年収穫を体験しましたが、苗植えからは今年が初でした。

8月21日、6月に植えた枝豆の収穫に21人が挑戦。また、真っ赤なミニトマトや面白い形の

ピーマンを見つけては「でっかい」「見て見て」と声を上げ、両手いっぱい抱えていました。翌22日には、収穫した枝豆をゆでて園児17人のおやつに。殻が山盛りになるほど夢中で食べました。植えて、取って、食べる――一連の体験を通して、子どもたちは食の喜びと大切さを実感しました。
（済生記者 定 淳志）



〈茨城〉常陸大宮済生会病院 フードバンクに食糧支援

当院ではソーシャルインクルージョン活動の一環として、今年6月30日から7月22日まで、職員更衣室通路前に「きずなBOX」を設置し、職員から食糧などの寄付を募るフードドライブを実施しました。

当院では4回目の試みで、飲料水や乾麺・レトルト食品などの食糧品85点、段ボール2箱分が集まりました。

7月30日にフードバンク茨城水戸支部に寄付



品を届けました。担当者からは、「料理をすることが難しい人もいるのでレトルト系の商品は非常にありがたいです。お米、麺類ともに米不足の影響で寄付が減っていたのでこちらも助かります」との言葉があり、今後定期的な食糧支援事業を実施していきたいと思っています。
（総務課 菊池琴美）

「心不全塾」拡大版で患者さんに優しいヨガも

福岡総合病院

8月12日、循環器内科と心不全チームが「暮らしと心不全まるごと講座」を開催しました。当院では心臓リハビリテーションの一環で毎週「心不全塾」を開き、心不全の知識や自己管理法を教えています。今回はその拡大版で、患者さんの家族も招待して約30人が参加。

辻元由貴管理栄養士と嶋田優紀理学療法士からは「栄養とリハビリ」が最強コンビ!と題し、心不全を発症、増悪させることなく安心して生活するための話。クリバルヨガ講師の塚本希さんによる「やさしいヨ



クリバルヨガ講師の塚本先生(左)

ガ体験」では、心不全患者さんにも優しいヨガを実践してもらい大変好評でした。

会場では、栄養部などによる展示や便利グッズも紹介。休憩時間には多くの参加者が立ち寄り、説明に耳を傾けていました。

(経営企画課 木下昌子)

三重 明和病院 健康講座で肩こり解消!

毎月恒例の「モルウオーキング」と「出前健康講座」を8月20日にイオンモール明和で開催しました。



当日は買い物に訪れた人など35人が、20分ほどかけて館内をウォーキングした後に、当院の岡部光晃理学療法士と荒木洋人作業療法士による「自宅のできる肩こり解消体操」の出前健康講座を開催しました。実際に身体を動かす体操を取り入れた内容で、参加した人は「理学療法士さんたちと直接話ができて、体を動かすことができてよかった」と喜んでいました。

9月17日には水谷美樹管理栄養士による「減塩、気にかけていますか?」を実施し、10月15日、11月19日、12月17日にも同講座を開催する予定です。皆さんの参加をお待ちしています。

(総務課 森川瑞稀)



福岡 飯塚嘉穂病院 最新のニーズを理解し 医療福祉機器開発に挑戦

8月21日、飯塚市ののがみブレジデントホテルで「医工連携フォーラム in 飯塚」がハイブリッド形式で開催されました。当日は会場・オンライン合わせて144人が参加し、基調講演やトークセッションが行な



われました。トークセッションでは「医療現場が求める最新の医療機器ニーズ」と題して、飯塚病院、飯塚市立病院、総合せき損センターがパネリストとして登壇。当院はコメンテーターとして三石敬之副院長が登壇し、それぞれ発表されたニーズに対して、医師の立場で見解を述べ、



その必要性を解説しました。当院では2015年から行政や近隣の飯塚病院、九州工業大学などとともに医工学連携に取り組んできました。今後も患

献血でつなぐ命のバトン

年2回、日本赤十字社の献血バスが当院にきます。今年度1回目の8月19日には、過去3年間で最多となる37人の職員が協力。

実施1週間前に埼玉県赤十字血液センター献血推進課長から「献血確保数が目標数を大幅に下回っている」との現状を伺っていました。そこで秦健二人事・総務課長とともに、院内掲示やイントラネットでの告知、さらには直接声がけでの周知を行ないました。

参加者に協力理由を聞くと「父が大量に吐血した際、輸血で命が助かった経験があり、それ以来、献血に協力したいと思うようになった」「いつか自分が助けてもらう側になるかもしれない。だから元気なうちに協力したい」といった声が寄せられました。

(人事・総務課 本橋和宏)



《静岡》特養小鹿などでカラフルなペイントで気分上々!

7月20日にスタートした防災かまどベンチ製作。レンガ積み作業に先駆け、レンガへのペイント作業を8月12・13・19日の3日間で行ないました。

通常はレンガ積み上げ後にペイント作業を行いますが、しやがんだり、低い姿勢が困難な入居者さんたちがレンガにペイントできるよう、当苑では事前に行なうことに。

入居者さん約8人でカラフルなペンキを上手に塗り、文字や絵を描きました。はじめは緊張



した面持ちでしたが、徐々に「昔、こういうことやっていたんだよね」「なでしこと言ったら、祭だよね」と大盛り上がり! とても元気が出る作業になりました。

8月23・30日、その思いが入ったレンガを西豊田実行委員会の皆さん、地域や当苑の職員約12人で無事積み上げ、かまどの形が完成しました。

(地域ケア担当 望月亜紀)

topics



海のいきものつり、ボウリング、うちわ、フォトスポット作りの屋台を準備し、親子で各屋台を自由に回って楽しんでもらいま

した。

たべもの屋さんでは焼きとうもろこしをひっくり返したり、ポップコーンの機械を回すことができ、大人気でした。お店屋さんになりきり、夢中で遊ぶ姿も。どの屋台からも笑い声が響き、笑顔があふれ、にぎやかな一日となりました。

(施設サービス課 坪川佳代)



自分の身を守るために

〈大阪〉中津病院

9月16日、防犯意識を高める目的として、曽根崎警察署の協力のもと防犯教室を開催しました。

当日は職員約80人が参加。講義の前半は、犯罪に遭わないための外出時の注意点、エレベーターの立ち位置や電車内の立ち位置のポイントをクイズ形式で学びました。

後半は、腕をつかまれたときや背後から抱きつかれたときの逃げ方、護身術を実践的に学びました。護身術は警察官に武道指導をしている指導員から非常に分かりやすく学ぶことができました。

敬老会で歌や踊り 芋煮に大喜び

〈山形〉特養ながまち荘

9月15日の敬老の日に出当2階研修室で敬老会を行ない、入居者さん・ご家族・職員の計46人が参加しました。今年は紀寿が5人、白寿2人、米寿が2人とお祝い者の人数も多く、ご家族も参加されとても賑やかで和やかな式典となりました。

式典では慰問団体の笑歌会が民謡などを5曲披露。皆さん懐かしい歌に聴き入っていました。また、今年度入職したミヤンマ出身の職員2人が、ミヤンマの踊りを披露しました。入居者さんも職員も、初めて観る踊りに感激。笑顔あふれる和やかな時間となりました。



な時間となりました。

昼食のお祝い膳では山形秋の風物詩「芋煮」を召し上がり、「やっぱりこの味だよなあ」と大変喜んでいました。

今後も入居者の皆さんが元気に安心して、そして大切なご家族とより多くの喜びの時間を過ごせるようケアに努めます。

(長期入所 介護職員

村岡千成実)

〈北海道〉小樽病院

大腸カメラのすゝめ

8月31日、当院主催の地域共生健康セミナー第6弾「大腸カメラのすゝめ」を開催しました。会場はウイングベイ小樽5番街1階の済生会ウエルネスリハデイサービス「ライヴリー」で、近隣住民を中心に19人が参加しました。

今回の講師は明石浩史消化器内科診療部長。大腸カメラ検査の事前準備や注意点、検査で見られる疾患とその最新の治療法まで、分かりやすく解説しました。近年、小樽市内でも大腸がん患者が増加傾向にあることから参加者の関心が高く、会場では多くの活発な質問が寄せられました。



れました。

明石診療部長は「大腸カメラは確かに負担の大きい検査ですが、病気の早期発見に非常に有効です」と強調し、参加者にもその意義がしっかりと伝わった様子でした。

(広報室長 松尾寛志)

〈福井〉ぽっかぽか園

笑顔いっぱい緑の日

8月23日、福井県済生会の院内保育所ぽっかぽか園で緑日ごっこを開催しました。

当日は全園児28人と保護者56人が参加。2歳児ひまわり組さんのダンスのパフォーマンス、シルエットクイズから華々しくスタート。たべもの屋さん、



峰関の2人の力士が当荘に足を運んでくれました。

正面玄関から力士が登場する中、参加した40人の入居者さんから喜びと感動の声があふれ、会場は一瞬で熱気に包まれました。会場に同行した安達春彦山辺町長からの挨拶、入居者さんからの花束贈呈の後、記念撮影と力士との握手会が行なわれました。

特に握手会では「うわあ大きいね!」と驚き、「初めて力士と握手した」「わがわが来てくれて感激だ」といった喜びの声が上がりました。珍しい催しとあって、入居者の皆さんは大いに楽しんだ様子でした。

(済生記者 岩田恭寛)



「済生丸」CF 終了 目標達成でX線機器更新

〈岡山〉瀬戸内海巡回診療事業推進事務所

6月2日に開始した、巡回診療船「済生丸」のX線機器更新を目的としたクラウドファンディング(CF)は、全国の1200人を超える方々からの温かいご支援により、8月29日に無事終了しました。

目標金額
3000万円

に対し、最終的には4060万円ものご支援をいただくことができました。心より御礼申し上げます。

老朽化したX線機器を更新することにより、済生丸は今後も安心・安全な診療を提供し続けることができ、離島に暮らす方々が住み慣れた地域で、必要な医療を受けられる体制が整います。

CFを通じて寄せられた応援メッセージも、医療の現場を支える大きな力となりました。これから「海を渡る病院」として、職員一同、離島医療に全力で取り組んでいきます。

(瀬戸内海巡回診療事業)

推進事務所 原田佳子

〈福岡〉飯塚嘉穂病院 眼の病気について知る

9月6日、飯塚医師会館・講堂で西日本新聞市民医療講座が開催され、当院の中武俊二眼科部長が「眼疾患について」と題し講演を行いました。この講座は、地元の西日本新聞社が地域貢献活動の一環として実施しているもので、約40人の市民が参加しました。

〈鳥取〉境港総合病院 学生の真剣な眼差し 職員も良い刺激に

8月20・29日に当院で看護体験研修を行ない、各日3人ずつ、合計6人の看護学生が参加しました。

検温、与薬・注射見学をはじめ、手術室では実際に手術着に着替えての体験を行いました。



講演は眼と視覚についての説明から始まり、白内障や緑内障など四つの症例について、罹患の原因や治療方法などを分かりやすく解説。参加者からも多数の質問がされ、眼の疾患に対する関心の高さがうかがえました。

(経営企画室長 春口勇介)



どの感想がありました。学生の皆さんの真剣な眼差しに、私たちも初心を思い出す良い刺激をいただきました。いつの日か医療の世界でお会いできることを楽しみにしています!

(済生記者 亀尾美子)

〈茨城〉神栖済生会病院 未来の仲間を増やしたい

7・9月、当院では地元の中高生の職場体験を数多く受け入れました。

神栖市や茨城県ナースセンター主催の職場体験が計10回実施され、合わせて51人の中高生が来院。看護体験をはじめ各部署の見学、医療器具の操作体験など多岐にわたる体験を行いました。

これまでは看護部主体で行なっていました。今回は医療技術部や地域包括支援センター、訪問看護ステーションなど看護部以外の部署も協力し、多様な

体験を提供することができました。今回は男子の参加者が非常に多く、親戚に看護師がいる、自身の当院への入院経験から興味を持ったという学生も。また、

〈大分〉日田病院 果敢に挑戦する姿勢に 勇気ももらう

8月31日に奥日田椿ヶ鼻ヒルクライムレースが開催されました。今年は381人が挑みましたが、山頂までの全長13・6キロメートル(平均斜度7・5%)の坂をひたすらペダルを踏み登る、そしてゴール付近では最大斜度16%の坂が待つという過酷なサイクリングレースです。

当院DMAT隊(医師・看護師・業務調整員の4人)は救護班として参加しましたが、幸いにも傷病者はおらず、大会は事故なく終了しました。

また、当院看護師の河内勝宣さん・野上光友さんが出走。厳しい

診療放射線技師や管理栄養士といった職業に興味を持って参加する学生もいて、個別に各職種の職員に話ができる機会を設けるなどして対応しました。

(済生記者 江口裕紀)

勾配にも果敢に挑み完走した姿に、救護班一同深く感銘を受けました。挑戦する姿勢から勇気をもらい、安全を守る立場でありながら支えられたと感じる大会でした。

今後は通信・物資の整備をさらに強化し、応援と安全を両立できる救護班を目指します。

(用度課 係長 末竹清治)



〈鹿児島〉川内病院

タオル帽子20枚寄贈 患者さんの心の支えに

8月28日、地元で活動する川内なでしこライオンズクラブのメンバー4人が当院外来化学療法室に来訪し、タオル帽子20枚を寄贈いただきました。

同クラブは、がん化学療法の副作用で悩む患者さん用のタオル帽子を手作りして薩摩川内市の医療機関へ届けており、当院も約10年前の連絡をきっかけに毎年タオル帽子を寄贈いただいています。

患者さんからは「肌触りと通気性がよく、デザインもいろいろあってうれしい」との感想が寄せられています。化学療法に従事するスタッフからも「毎年提供いただき、患者さんに喜んでもらえて大変ありがたい」との声が聞かれました。

なお、この取り組みにご協力いただける方々へ未使用タオルの寄付を募集しています。温かい支援をどうぞよろしくお願い致します。

（看護部長 寺脇佐代子）



消防本部との交流会に71人

7月11日、当院なでしこホールで2年ぶりとなる乙訓消防組合消防本部との交流会を開催し、当院45人・消防本部26人が参加しました。

伊藤義人院長が「地域の救急医療へのさらなる貢献を目指す」と開会の挨拶。消防本部の壬生成次長からは「大切なパ



トナーとして連携を深めたい」との言葉をいただきました。

地域連携室からの報告に続き、症例検討では心筋梗塞などの症例を通じ、上がった質問に中島智樹診療部長や曾我部功二循環器内科医長が回答しました。

その後、救急診療体制や電話対応における課題について意見交換。前田絵理子HCU・救急外来係長が当院での取り組みを報告しました。

最後に消防本部による救急救命活動訓練が披露され、質の高い内容に参加者一同感銘を受けました。

（地域連携室 主事 巖 康裕）

岡山済生会看護専門学校 看護学生同士で切磋琢磨

8月21日、済生会看護学生研究発表会が開催されました。毎年、済生会の全国七つの看護学校（宇都宮、川口、静岡、滋賀、大阪中津、大阪野江、岡山）によりオンラインで実施。今年は



岡山がホスト校で、学生と教員合わせて801人が参加しました。

午前中の研究発表会では、各校が担当事例を振り返り、看護実践の意味や課題をまとめて発表。学生からは「日々の成果を発表する姿に大変刺激を受け、課題を共有できた」との声が

聞かれました。

午後は、イタリアで救命救急看護師として活躍する当校卒業生・繁嘉代子さんが講演。「日本で学ぶ看護は、世界の中でも患者さん優先でトップクラス。今学んでいることを大切にして頑張つて」とのメッセージをいただきました。

全国7校の交流を深めることができ、有意義な研究発表会になりました。

なりました。

（教務主任 三宅和代）

〈愛媛〉今治老健希望の園 柿の練り切りで秋を感じる

9月17日、敬老会のイベントで入所者さん30人と練り切り作りを行いました。

まだ暑い日が続く中、一足先に秋を感じていただこうと柿の



練り切りを作ることに。皆さんイベントが始まる前から「楽しみやねえ」「何するの?」とワクワクしていて、あんこを丸めたり、柿の形を作ったりと、体が覚えている様子で上手に作業していました。

さまざまな形の練り切りが出来上がり、90人の入所者さんでおいしく食べていただきました。入所者さんからは「主婦やけん上手にできるよ!」「楽しかった!」「おいしかった!」といった声が寄せられました。

新型コロナウイルス感染症が流行して以来、何かを作って食べる行事は久しぶりで、入所者さんの笑顔があふれる楽しい会になりました。

（済生記者 濱本佳代）



山形済生病院

医療職を目指す高校生が 患者さんとふれあう

8月29日、将来医療職を目指す県内の高校生14人を迎え「ふれあい看護体験」を開催しました。

看護部長から済生会や看護についての講話を聞いた後は、各病棟に分かれて看護の様子を見

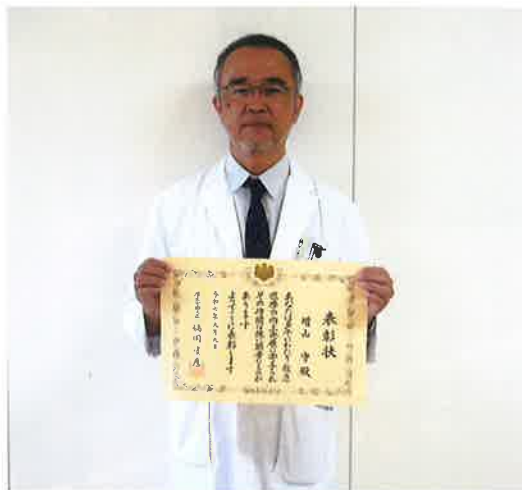
学し、患者さんの近くでさまざまな体験を行いました。患者さんと一緒に折り紙制作をしたり、リハビリテーション部など多職種との関わりを見学したりしました。

参加した学生からは「実際に患者さんと関わるのは初めてで、とても良い経験になった」「患者さんとたくさんコミュニケーションをとりながら、会話や声掛けで信頼関係を築いていくことが大切だと感じた」「将来、一緒に現場で働きたいと思った」などうれしい感想が寄せられました。

（済生記者 柏倉汐里）

topics

地域の救急医療の確保や救急医療対策の推進に貢献した個人や団体に贈られる名誉あるものです。増山副院長は救命救急センター長として、当院の救急医療体制の運営・整備において中心的な役割を果たしてきたことが



9月9日、当院の増山守副院長が「令和7年度救急医療功勞者に対する厚生労働大臣表彰」を受賞しました。この表彰は、

**救急医療功勞者として
厚生労働大臣表彰を受賞**

滋賀県病院

が伝わってきました。
(済生記者 日高 純)

8月21日、職員の安全を守る取り組みの一つとして防犯研修を行いました。守山警察署生活安全課の警察官3人を講師に迎え、約30人が参加しました。はじめにネット犯罪やSNSを悪用した詐欺など、最近増えている犯罪の手法や対応方法について講義を受けた後、護身術の指導をしていただきました。病棟や受付などの現場で患者さんと接するスタッフは女性も多いですが、力に頼らずに身を守るための動きなどを教えてもらい、参加者同士で実践しました。実際にやってみると難しく、「自分の力のなさが分かった」「習得のために定期的にやって

危機管理意識を高める

〈滋賀〉守山市民病院

(済生記者 鵜飼健成)

評価されました。受賞にあたり増山副院長は「この度の受賞は私個人の力によるものではなく、救急医療に携わるスタッフ全員の努力の賜物です。今後も地域の皆さまに安心していただける救急医療の提供に尽力してまいります」と述べました。

7月25日、当園の別邸「しもまち笑顔の家」に新潟市の中原八一市長が視察のため来訪しました。「しもまち笑顔の家」は行政や地域コミュニティなどの声を

**「地域の茶の間」で
市長と歓談**

〈新潟〉特養康和園

(済生記者 中嶋元香)

ほしい」との声が上がりました。警察官から直接話を聞いたことで犯罪が身近に感じられ、危機管理意識の向上にもつながりました。



受け、それまで空き家だった一軒家を活用し、2017年8月に「地域の茶の間」として開設された地域包括ケアシステムのモデル施設です。視察では終始和やかな雰囲気の中、茶の間を利用している地域住民の皆さんと歓談したり、記念写真の撮影を行ったりしました。

中原市長は職員や地域住民の皆さんと下町地域の現状や地域包括ケアシステムの取り組みなどについて話をし、意見にも熱心に耳を傾けていました。

(済生記者 山田裕樹)



**地道な広報活動で
済生会ファン増を目指す**

済生会広報・ブランディングプロジェクト

7月25日、済生会広報・ブランディングプロジェクト(旧称・済生会広報実務研究会)第19回会議を済生会本部で開催し、現地28人、オンライン12人が参加しました。今年10年目を迎えた本会では、4チームに分かれて、法人理念とソーシヤルインクルージョンの広報を軸に、動画・リーフレット・学会展示などの制作に取り組んでいます。



会議ではチームごとに活発な意見交換が行なわれました。「広報で患者が増えるのか?」という声もありますが、地道な広報活動が済生会のファンを増やし、地域での存在価値を伝えることにつながります。会員には本来業務と兼務という職員も多いですが、済生会全体のブランディング向上に皆で取り組んでいき

ます。
(チームCリーダー)
神奈川・横浜若草病院
済生記者 長澤伸哉

〈神奈川〉横浜金沢若草園
支援学校から教職員見学



導に役立てていただくことを目的としています。

当日は、就労継続支援A型・B型、生活介護、短期入所グループホーム、就労定着支援、計画相談支援の各サービスについて、実際の設備や作業などの現場を見学していただきながら、それぞれの特徴を説明しました。

最後の質疑応答の時間では「就職につながったケースはありますか」「新年度の採用予定人数はどのくらいですか」「短期入所はどのような方が利用されるのですか」など多くのご質問をいただき、当園への関心を持って参加していただいたこと



和歌山病院

地元の伝統イベントで 踊りながら練り歩く

8月2日、和歌山市の夏の風物詩、第57回紀州おどり「ぶんだら節」が開催され、当院は3年連続で参加しました。

紀州おどり「ぶんだら節」は毎年夏に開催。昭和44年に始まった伝統のあるお祭り、ミカンを江戸に運んだ紀州出身の豪商・紀伊國屋文



左衛門にちなんだ紀州おどりを踊りながら和歌山城周辺を練り歩きます。今年は全体で71団体およそ5000人が参加しました。

当院からは川上守院長、英肇統括副院長をはじめ新入職員、職員家族を含め総勢58人が参加。初めて参加する職員も多く、多職種のスタッフとも親睦も深める機会となりました。

猛暑の中、皆で元氣いっぱいには踊り切

り、夏の夜を盛り上げることができました。

(済生記者 松元靖寿)

「つなごう」テーマに 地域と作り上げた夏祭り

8月23日、済生会夏祭りを開催しました。今年のテーマは人と人とのつながりを大切にしたいという思いを込め「つなごう」。開催直前には台風の接近情報もあり、中止か決行かで緊張が走りましたが、当日は見事な青空と美しい夕焼けに恵まれ、無事に開催できました。

今年度も二部構成で、第一部は病院内を活用したウォークラリー。第二部は地域の皆さんと



連携したプログラムで、水軍太鼓演奏、盆踊り、屋台コーナーなどで会場は大いに賑わいました。子ども向けゲームコーナーや大抽選会も行ない、世代を超えた交流の場として延べ500人の来場者が一緒に楽しみました。

今年からは日頃お世話になっている関連企業の皆さんの協賛もあり、例年以上に多くの方々と協力して作り上げた夏祭りとなりました。

(リハビリ課 作業療法士 高市 萌)

ワニワニからお化けまで 長崎病院

8月7日、院内託児所で「夏祭りごっこ」を行ない、10人の子どもたちが参加しました。

ゲーム大会では、手づくりのワニワニパニック、お菓子つりで大盛り上がり。ゲームが終わるたびにご褒美のシールを貼ってもらい、ニコニコ。

その後、外に出て、「わっしょい！ わっしょい！」とセミの鳴き声に負けないうくらい大きなかけ声でお神輿を担ぎました。部屋に戻り、いよいよ夏祭り



の大目玉「お化け屋敷」。怖くて泣いてしまう子もいれば、きらきら光るリングをつけて「これがあれば行けるもん！」とお友だちとともに果敢にお化け屋敷に入っていく子もいました。帰りの迎えのときに、パパとママと一緒に一度お化け屋敷にチャレンジする子もいて、親子でも楽しんでもらうことができた夏祭りごっこでした。

(済生記者 大川七海)

地域の祭りで神輿巡行！ 中央病院

当院がある港区三田では9月

14日に「元神明宮神幸祭」があり、神社神輿巡行が執り行なわれました。

神輿の巡行はこれまで2年に一度行なわれてきたそうですが、コロナ禍で中止が続き、今回は6年ぶりのこと。たくさんの方の氏子の皆さんが参加し、地元である当院にも巡行していただき、杉村栄一支部長、海老原全院長はじめ複数の職員で神輿をお迎えしました。

威勢のいいお囃子と担ぎ手の皆さんの「ソイヤ！ ソイヤ！」



の声が病院敷地内に響きわたり、しばしの間お祭りの賑わいを楽しみました。

(社会貢献推進委員会 佐藤弘恵)

「北海道」みどりの里 セラピードッグまで！

8月2日に「なでしこ祭」を開催しました。利用者さん120人が参加し、約130人が来場しました。

当日はキッチンカーが来てくれ、焼き鳥・たい焼き・たこ焼き・クレープが振る舞われました。屋内ではトランペット演奏や運がっぱ(小樽のマスコットキャラクター)のステージ、利用者さんによるカラオケ大会やパフォーマンス披露が行なわれました。

その他、モルック体験や団扇製作、スノーブレン(心地よい刺激で感覚を整えるリラクゼーション)体験など、楽しい企画が盛りだくさん。屋外では涼みながらかき氷やスムージーが楽しめる、セラピードッグとのふれあい、バレーボールの時間もありました。



中には12人の大人数で参加した家族も。家族の皆さんも今回のイベントを楽しみにしていたことがうかがえました。

(済生記者 上野孝嗣)



〈山形〉特養愛日荘 夏祭りの食と遊びを楽しむ

愛日荘夏祭りを7月31日に開催し、150人ほどが参加しました。今年は暑さが厳しいため、入居者さんの負担を考え、内での開催に。1カ月前から荘内を提灯などで飾り、夏祭りの雰囲気を出しました。

当日は山形名物のどんぶり焼きや玉こんに、チョコバナナやプリンなどの食べ物、輪投げや射的などの遊び屋台が並び大盛況。



お目当ての屋台をめぐり各々楽しんでいました。夏祭りでは味わえない雰囲気や食べ物に「うんまいな」。もっと食いたいな」との声もたくさん聞かれました。輪投げや射的では、狙いを定めて打つものなかなか当たらず悔しい表情が見られるなど、皆さん本気です。

入居者さんも職員も夏祭りを楽しみ、またいつもと違う表情を見ることができ、良い時間を過ごしました。

〈介護職員 大沼歩美〉

〈大阪〉泉南特養

なでしこりんくう

笑顔いっぱい！ やまのい食堂開店

8月22日、おとな子ども食堂「やまのい食堂」を開催し、大人68人、子ども51人の計119人が参加しました。

今回は、焼きそば、フランクフルト、ポテトフライなどの屋台メニューを提供。また、夏祭りイベントとして地域のボランティアや団体にも協力を仰ぎ、ヨーヨー釣りやスーパースクールすくい、フォトフレームを使った工作コーナーも用意しました。

会場は大にぎわいで、あちこちから子どもたちの楽しげな声が聞こえ、笑顔あふれる楽しい夏の思い出ができました。

令和7年9月で、やまのい食堂は開設1周年を迎えました。地域の皆さんの温かい支援に感謝し、今後も子どもたちが安心して過ごせる居場所づくりを続けていきます。

〈済生記者 阪上健介〉

〈福井〉老健ケアホーム・ さいせい

昔懐かし、今も楽しい！ デイケア緑日

8月18（22）日、当施設のデイケアで「デイケア緑日」を開催しました。日替わりで30～40人の利用者さんが参加し、伝統的



「これ、いい色やろ？」「家に飾っておくわ」と喜んでいただきました。

このイベントを通じて、利用者さん同士、また利用者さんとスタッフとの交流が深まりまし



な縁日遊びを楽しみました。

各日、用意したスマートボールや輪投げ、ヨーヨー釣りなどの懐かしい遊びに興じる姿が見られ、最後には皆で盆踊り。「懐かしい」「昔やったわ」と笑い声に包まれ、楽しい時間となりました。また、ヨーヨーはお土産として持ち帰れるようにし

た。初めての縁日イベントで慌ただしい場面もありましたが、全体として成功に終わったと感じています。

〈介護職員 大嶋友恵〉

〈愛媛〉小田老健ふじの園 納涼祭で猛暑を乗り切る

猛暑が続く中、7月30日に当園ホールで納涼祭が行なわれました。入所者さんと家族合わせ

て約65人の参加となり、久しぶりのにぎやかな開催に、職員も張り切って浴衣や法被を着て雰囲気づくりも万端です。

会場の真ん中に入所者さんが願いを込めた短冊をかけた笹飾りを設え、ゲームや盆踊りを皆で楽しみました。参加した家族も共に大いに盛り上げに協力。また、終了後は入所者さんとゆつくり過ごしてもらうことができました。

入所者さんとその家族も終始笑顔が見られ、「来てよかった」「楽しかった、本当に外の暑さを忘れたわ」との感想も。改めて家族との時間をつくることの大切さを感じました。

〈事務 伊藤由美〉

岡山済生会

ライフケアセンター

家族との楽しいひととき

8月22日の夜、当施設の駐車場で「納涼盆踊り大会」を開催しました。

昨年は感染対策のため、ご家族の招待人数に制限を設けていましたが、今年はその制限を解除。入所者さんとご家族、地域住民の皆さん、そして職員合





盆踊りや的当てで 盛り上がった夏祭り

明和苑デイサービスでは8月25～29日の5日間、夏祭りを開

〈三重〉介護老人福祉施設
明和苑

「再認識した」と語り、交流の意義を強調しました。
(済生記者 橋本来林)



会場には色とりどりの浴衣姿の職員が集い、夏を感じながら笑顔で交流。当日は登谷大修支部長、笠原善郎院長、そして宗本義則院長補佐の挨拶から始まり、毎年恒例の大抽選会などが行なわれました。

幹事を務めた外科医の長谷川航大医師からは「職種の垣根を超えて、笑顔で交流できる場を作れてうれしかった」とコメント。また、浴衣姿の笠原院長は「コロナ禍を通じて、SNSにとどまらず、直接コミュニケーションをとることの大切さを再認識した」と語り、交流の意義を強調しました。

浴衣や法被を着た職員が盆踊りを踊ると、一緒になって輪の中に入って踊る利用者さんも。多くの方は椅子に座って手を大きく振って参加し、場を盛り上げていただきました。

また、的当てのゲームでは高得点が出ると太鼓が鳴り響き、盛り上がりは最高潮に。「貼り絵もまたしたい」「的当ては難



当日は法被とはち巻きを身につけ、子どもたちは大盛り上がり。「いらっしやいませ」と元気な声が響いていました。お客さん役の子どもたちは「またおまつりいきたい



7月29日と8月1日、年長児10人がお部屋さんになる「おまつりごっこ」を実施しました。1日目は0・1・2歳児と地域の親子、2日目は3・4歳児、合計約40人がお客さんとして参加しました。

〈神奈川〉わかくさ保育園
「な」と言うほど楽しんでいました。これからの異年齢の関わりを大切に、子どもたちの「やりた」を日々の保育に取り入れていきます。
(済生記者 佐藤凜華)

みんなで楽しむ年長児のおまつりごっこ

〈神奈川〉わかくさ保育園

しかっただけ楽しかった」「来て良かったありがとう」など多くの感謝の言葉をいただき、皆さんに喜んでいただけたことを

うれしく思います。
(明和苑デイサービス
介護福祉士 木下将希)

夏らしい思い出づくり

〈滋賀〉特養淡海荘

8月5日、家族会主催の夏祭りを開催しました。「利用者さんに夏らしい思い出をつくってあげたい」という家族会役員の強い思いから実現。「昼間でも花火はできないか」「家族と一緒に楽しめる内容に」などさまざまな意見を出し合って計画しました。

当日は33家族・53人が参加。利用者さんも浴衣に着替え、家族と一緒に各ブースを回って楽しんでいました。手持ち花火もとてもきれいで、「何年ぶりやろ。キレイやなあ」と親子や夫婦で懐かしむ様子も。また、社会貢献活動として株式会社セ



レマのスタッフ2人がハンドマッサージとヒーリングを併せて開催し、イベントを盛り上げていただきました。これからの家族や地域、関係機関とつながりながら利用者さんの生活が充実するよう働きかけていきたいです。
(生活相談員 遠藤百虹)

〈兵庫〉看護小規模多機能型
居宅介護などしこ神戸

神輿やゲームで盛り上がる

8月29日に毎年恒例の多機能祭りを開催し、利用者さん16人と職員14人が参加しました。

利用者さんと職員が一緒に盆踊り(炭坑節)や神輿を担ぎ、「ワッショイ」の掛け声で盛大に盛り上がりました。昼食は屋台の焼きそば、たこ焼き、ポテト、枝豆、アメリカンドッグ、スイカ、ラムネ。また、ヨーヨー釣りのヨーヨーを手を持ち、夏祭りの雰囲気を感じられる一日となりました。

金魚すくい、的当て、お好み焼き返しゲームに参加した皆さんは、優勝を目指して取り組みました。的当て、お好み焼き返しゲームでは同点で決勝戦も行

ない、声援も飛び交う熱戦に。閉会式では、各ゲームの1位から3位までの方を発表して、職員手作りのメダルを贈呈。総合優勝の方にはトロフィーを贈呈し、皆さん素敵な笑顔で喜んでいました。
(複合課 副主任 兵頭達也)

福井県済生会病院

色とりどりの浴衣で集う 内科・外科合同の納涼祭

8月21日、内科医・外科医による「大納涼祭2025」が開催され、約200人が参加しました。かつては別々に開催していましたが、2008年から両科合同の一大イベントに。



平らげ、デザートチーズケーキも大好評!!

また来年の夏も楽しいイベントを考え、利用者さん・職員共に楽しみたいと思います。

(兵庫・特養ふじの里 東館介護課 介護主任 井手口 良)

★いつもおもしろい記事がありありがとうございます! うなぎはパリッと焼いた関西風が好みます!

(メディカル・リーフ 岩谷純二)

リベンジ!? スポーツ大会

8月29日、横浜市役所で横浜市主催のeスポーツ大会「戦参」SENZAN」第3回大会の企業・学校対抗戦が開催されました。

横浜市内の企業・学校による3人



組のチーム戦で、今年は11チームが出場。国民的パズルゲームで順位を競います。神奈川県病院からは、先鋒・佐久間勇太さん、中堅・高橋智之さん、大将・小山友輝(私)のチームで参加しました。

1回戦はJA横浜さんとの対戦で見事勝利しましたが、続く2回戦では2大会連続で準優勝したチームと対戦し、実力差を見せつけられて惜しくも敗退。結果は昨年に続き2回戦敗退となりました。

来年こそは上位進出を目指して頑張りたいと思います!

(神奈川県病院

済生記者 小山友輝)

★悔しさを伝える熱戦でしたね。同じゲームとして、来年こそは上位進出期待しています!

(メディカル・リーフ 紫村柊斗)

踊って演奏! ダンプレに感動!

ダンプレってご存じですか? 踊りながら演奏する北海道発祥の演奏スタイルで、ダンシング&プレー

イングを略しています。

そのダンプレで有名な札幌国際情報高校吹奏楽部から部員40人が、9月8日に開催された「小樽くらしたい共生フェス2025」に参加してくれました。

ダンプレを生で見聞きするのは初めて。演奏が始まった瞬間から、全身に鳥肌が立つほどの完璧な演奏! 演奏が進むにつれて会場を見回すと、皆曲に合わせて掛け声をかけたり、手を動かしたり。中には踊っている職員(スタッフ)も(笑)。見事に会場の一体感を作ってくれました。

さすが年間100ステージ以上こなしている学校だと感心しました。機会があれば、また小樽で演奏をしたい。



てもらいたいです。

(北海道・小樽老健はまなす

済生記者 伝法俊和)

★ダンプレの迫力、読んでいてワクワクしました! ぜひ生演奏を見てみたいです!

(本部広報課 杉山菜央)

今年は水鉄砲名人が誕生!

(埼玉) 川口乳児院では7月1日にプール開きを行いました。この夏は猛暑のために水遊びができない



日が続きました。そのような中、少しでも暑さが和らぐ夕方や曇り空の日を選んだり、屋根の下に簡易プールをいくつも並べたり、工夫をして楽しんでいました。

8月上旬の水遊びでは、4歳の男の子が水鉄砲を誰よりも上手に使いこなし、職員を狙って水を掛けて回っていました。その度にあちこち

から「キヤー」という職員の声

……。最後には、院庭の遊具のパンダや鹿を的に、真剣な表情で狙いを定めていました。

9月に入りましたが、もうしばらく水遊びを楽しめそうです。

(埼玉・川口乳児院

済生記者 大貫典子)

★猛暑に負けない工夫が最高……。水鉄砲の構え方なんてプロみたいでカッコいい!

(本部広報課 大嶋 薫)



ようこそ、とよさいへ!

今年度、(山口) 豊浦病院では看護補助者として外国人を初めて採用しました。

私たちの仲間となったギリ・ソム・パハドゥルさん、チャードリ・ナラヤンさんはネパール出身。日本で介護福祉士の免許を取得することを目標に、日々、患者さんの介護やケアを病棟で実践して学んでいます。



二人は日本での生活経験もあり、ルームシェアをして一緒に暮らしています。まだ日本の文化や食べ物、仕事の流れに慣れている最中で、初

次号予告

済生 No.1157 [令和7年11月号]

済生会の不易流行論 (206) 炭谷 茂

NEWSな済生人

済生会交差点

この人 板垣李光人

口福につぼん (98)

てづくりおもちゃ いまいみさ

広告索引

富国生命保険相互会社
表紙見返し[表紙2]

秋の訪れを食で感じて

めて食べた納豆には苦笑い……。二人で切磋琢磨しながら、今は12月に行なわれる日本語検定試験に向けて日本語の読み書きや言葉の意味の勉強に毎日励んでいます。

職員皆でサポートしながら、今後の二人の活躍を期待しています。

(山口・豊浦病院 5階東病棟

副師長 嶋野一成)

★とろみのある日本のカレーに納豆とチーズのトッピングをお試ください。納豆好きになるかも!?

(本部広報課長 河内淳史)

主役の炊き込みご飯には、秋の訪れを感じさせる銀杏……見た目、味ともにアクセントとなっています。主菜の炊き合わせには南瓜が入っており、彩り鮮やかです。

盛り付けにもこだわり、調理師が

済生会横浜若草病院が、緑豊かなリハビリロードの整備に向けて

ご寄付を募集中！

目標金額 600万円 2025年10月1日(水) 9時から 11月28日(金) 23時まで



社会福祉法人
済生会横浜若草病院



「自分の足で、我が家に帰ろう」

横浜金沢での暮らしを、医療で支えたい

本プロジェクトへの寄付は、寄付金控除が適用されます。
WEBもしくは現金でのご寄付が可能です。詳細はHPまたは裏面をご覧ください。

リハビリテーションは決して訓練を指す言葉ではなく、ご本人が自分の力で自分なりの生活を営めるよう、あらゆる手段を講じることです。そしてその中には、活力を取り戻すことと、他人と交流し影響し合う場が必要です。そのために、当院は緑豊かなリハビリロードをつくり、「その人らしい未来」へ一緒に伴走していきます。

しかし、私たちだけではこの事業を進めることができません。これまで、地域医療・福祉を担う当院としての責務を果たしていくため、緊急度が高い事業に予算を割り当ててまいりました。今回の改修は自助努力のみでは限界がありますが、必ず実現させたい、悲願のプロジェクトでもあります。そこで、クラウドファンディングへの挑戦を決意いたしました。

社会復帰に向けて頑張る方が、未来へ一歩踏み出すための場所をつくるため、ぜひ皆様の温かいお力添えと、激励をいただけますと幸いです。
職員一同、ご寄付を心よりお待ちしております。

※本プロジェクトはAll in方式のため、目標金額の達成の有無にかかわらず実行者は寄付金を受け取ります。<https://readyfor.jp/projects/yokohamawakakusa2025>

インターネット上での手続きが難しい場合は、済生会横浜若草病院 事務局まで直接ご連絡ください。

TEL: 070-7363-0002 EMAIL: takagi.y@wakakusa.saiseikai.or.jp

プロジェクトの
詳細はこちら
公開日よりご覧いただけます



READYFOR

済生会横浜若草病院 レディーフォー



★秋の味覚「銀杏」「カボチャ」美味しそう！夏のエネルギーを感じる「絹さや」も鮮やかですね。
(本部広報課長 河内淳史)

★秋の味覚「銀杏」「カボチャ」美味しそう！夏のエネルギーを感じる「絹さや」も鮮やかですね。
(本部広報課長 河内淳史)



バランスを考えて食材を配置。味付けだけではなく、盛り付けや彩りも食欲増進につながっていくため、抜かりはありません。
今後も四季を感じられ、工夫を凝



眺めることができました。日が沈み夕焼けから夜景へと移り変わる瞬間はとてきれいでした。
船内では揚げたての天ぷらやお刺身などの食事を堪能。食事をしながら、普段あまり話すことのない他部署の方々と交流することができ、とても有意義な時間を過ごしました。
非日常的な空間で、おいしい食事と景色を楽しみながら親睦を深める良い機会になりました。企画進行を頑張ってくれた互助会委員さんにも感謝！
(東京・向島病院 臨床検査科 安部里菜)

★江戸の粋を伝えるすてきな納涼会！参加したお子さんも夏のよい思い出になったのでは。
(メディアカル・リーフ 坂本陽子)



済生会

明治44年2月11日、明治天皇は、時の総理大臣桂太郎を召されて「恵まれない人々のために施業救済による済生の道を広めるように」との済生勅語に添えてお手元金150万円を下賜された。桂総理はこの御下賜金を基金として全国の官民から寄付金を募って同年5月30日財団法人済生会を創立した。

以来今日まで114年、社会経済情勢の変化に伴い、存続の窮地を乗り越えるなど幾多の変遷を経ながらも、本会は「施業救済」という創立の精神を理念とし保健・医療・福祉の充実・発展に必要な諸事業に取り組んできた。

戦後、昭和26年に公的医療機関の指定、同27年に社会福祉法人の認可を受け、現在、社会福祉法人財団済生会となっている。

済生 [令和7年10月号]

THE NEWSLETTER of
Social Welfare Organization
Saiseikai Imperial Gift Foundation, Inc.

令和7年10月10日発行

通巻第1156号 (第101巻第10号)

編集兼
発行人 炭谷 茂

発行所 社会福祉法人 済生会

〒108-0073

東京都港区三田1-4-28

三田国際ビルディング21階

TEL: 03-3454-3311 (代)

FAX: 03-3454-5576

印刷所 株式会社白橋

東京都中央区八丁堀4-4-1

©社会福祉法人 済生会

総裁 秋篠宮皇嗣殿下
会長 潮谷義子
理事長 炭谷 茂
本部Ⅱ東京 支部Ⅱ40都道府県
病院 83
診療所 20
介護医療院 3
介護老人保健施設 28
救護施設 1
児童福祉施設 25
老人福祉施設 116
障害者福祉施設 9
看護師養成施設 7
訪問看護ステーション 67
地域包括支援センター 31
地域生活定着支援センター 5
その他 9
合計 404 (数字は令和6年度)
さらに巡回診療船「済生丸」が瀬戸内海の57島の診療活動に携わっている。
職員数は全国で約6万7000人。



社会福祉法人 恩賜財団 済生会支部

済生会川口乳児院

クラウドファンディングに挑戦中!

ご寄付
のお願い

第三目標金額

3,000万円

第一目標金額

500万円

第二目標金額

1,000万円

ここで暮らす子どもたちが、心から「安心できる」と感じられるように、私たちは、長年の願いだった建て替えを決意しました。

しかし、建物は築四十六年を迎え、あちこちで老朽化が目立つようになりました。大人数で生活している現在のお部屋から、子どもたち一人ひとりがその子らしく、のびのびと暮らせるように、少数人数でより家庭に近い環境をつくりたいと考えています。

済生会川口乳児院では、生まれてすぐに保護された子や、家庭での養育が難しい状況にある子どもたちが暮らしています。安心して生活できる場所があること。泣いたときに抱きしめてくれる人がいること。そんな「あたりまえの安心」を、この場所で過ごせるよう、私たちは日々寄り添っています。

「いのちを守り・育てる」
それが愛された記憶になる

募集期間

2025年

9/16 [火] ~ 12/12 [金]

23:00

資金使途

乳児院の建物老朽化による新院建築のため

川口乳児院 レディーフォー



<https://readyfor.jp/projects/saiseikaikawaguchinyujiin>

現金でのご寄付も受け付けております。
済生会川口総合病院の窓口にお声がけください。
済生会川口乳児院へのご寄付は、寄付金控除が適用されます。



お問い合わせ



社会福祉法人 恩賜財団 済生会支部
埼玉県済生会川口乳児院



乳児院院長
やぎはし
八木橋



048-256-8500



saikawa.nyujiin2@gmail.com